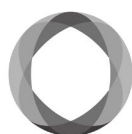


地域連携・防災研究センター年報

令和 6(2024)年度 第 17 号

やわらかな知性を身につける。



宮崎公立大学
MMU LIBERAL ARTS

目 次

地域連携・防災研究センター長あいさつ	1
--------------------	---

I 生涯教育事業

1. 定期公開講座	6
2. 自主講座	15
3. 語学講座	39
4. リカレント教育プログラム	47
5. 開放授業	52
6. 公民館講座	55
7. その他講座・講演・講義	56

II 研究事業

1. 令和6(2024)年度 宮崎公立大学学術研究推進助成事業	62
---------------------------------	----

III 連携協力事業

1. 宮崎市教育委員会等との連携協力	82
2. 宮崎銀行・宮崎太陽銀行・宮崎商工会議所との連携協力	84
3. 宮崎日日新聞社との連携協力	85

地域連携・防災研究センター長あいさつ



地域連携・防災研究センター長
宮崎公立大学 教授 川瀬 隆千

宮崎公立大学「地域連携・防災研究センター年報」の発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

宮崎公立大学 地域研究センターは平成 17(2005)年の発足以来、地域に関する研究を展開し、地域の課題解決に貢献してきました。令和 7(2025)年 4 月、地域研究センターは地域連携の機能をさらに充実させるとともに、地域の防災研究拠点としての役割を果たすため、「地域連携・防災研究センター」と改称いたしました。「地域連携・防災研究センター年報」はこれまでの「地域研究センター年報」から通算で 17 号になります。

令和 6(2024)年 8 月には日向灘で震度 6 弱の地震が発生し、宮崎でも震度 5 強を記録しました。幸い、本学では大きな被害はありませんでしたが、地震の怖さを改めて感じました。その後に発表された「南海トラフ地震臨時情報」は私たちの社会に大きな影響を与えました。情報提供の難しさを改めて感じたところです。

本学では、これまでも防災教育に力を入れ、市民のみなさまも受講できる開放授業として「自然災害と防災・減災」(新村拓也特任准教授)を開講し、防災士の養成を行って来ました。さらに、令和 6(2024)年 3 月には京都大学防災研究所との学術交流に関する協定も締結しました。これまでも防災に力を入れてきましたが、今後はその機能をさらに充実させるとともに、地域の防災研究・教育の拠点としての機能をより強化していきます。新しい「地域連携・防災研究センター」にご期待下さい。

では、令和 6(2024)年度に取り組んできた地域貢献活動を振り返ってみます。

まず、定期公開講座です。本学では、毎年秋に、統一テーマに基づき複数の教員がそれぞれの専門分野の講義を行う「定期公開講座」を開講しています。令和 6(2024)年度は言語文化専攻の教員が中心となり「現代の言論空間と文化」という統一テーマのもとに、「ヘイトスピーチの悪さをどう説明するか」(八重樫徹准教授)、「語学教育における(イン)ポライトネス」(リチャーズ ポール准教授)、「ご当地ヒーロー天孫降臨ヒムカイザーのライブ配信に出た新語・リサイクル語」(オチ デボラ 宮崎国際大学教授)、「文化的なマイクロ・アグレッションとその回避法」(モーク カタリーナ教授)、「日本語教育における微妙なニュアンスの探求」(原田真理特任講師・現特任准教授)、「現代の対話における空間の文化的次元」(ビンガム スコット教授)の 6 つの講演が行われました。

対面とオンラインで延べ 284 人の参加を得ることができ、大変好評でした。高校生の参加も多く、メモをとりながら、熱心に耳を傾ける若い姿が見られました。

語学講座は英語中級、中国語初級、韓国語初級の各講座を前期 10 回、後期 10 回に分けて実施しました。「英語中級講座」はスコット ビンガム教授が講師を務め、「中国語初級講座」は日中文化交流促進部の学生が、また、「韓国語初級講座」は韓国文化研究部の学生が講師を務めました。「楽しく学べる小学 3・4 年生初級英語教室」は中村勝志講師の担当で実施しました。延べ 59 人の小学生が参加し、元気な声が響きました。

自主講座は本学の教員がそれぞれの専門性や問題意識のもとに主体的に展開する講座です。自主講座は本学の地域貢献活動の特色の一つとなっています。令和 6(2024)年度には 11 人の教員が 12 講座を開催しました。テーマはバラエティに富んでいます。

実施順に紹介すると、「進路選択における格差」(寺町晋哉准教授)、「大人のための社会心理学ゼミ」(川瀬)、「JLPT 直前対策講座」(原田真理特任講師・現特任准教授)、「AI 兵器は戦争をより人道化するか？」(田村恵理子准教授)、「教員のための朗読講座 生徒と一緒に楽しむのが大前提、音読たのしいっちゃが！がゴール」(西村勇特任教授)、「土呂久と文学ー川原一之『和合の郷ー祖母・傾山系土呂久の環境史』を視座としてー」(楠田剛士准教授)、「私の中に社会が見えるー高校生のための社会心理学講座入門ー」(川瀬)、「みやぎき街ウォーク」(新村拓也特任准教授)、「教育機関・地域と連携した防災教育(第 14 回ストリートウォッチング)」(辻利則教授・学長)、「中高生のための『使える英語』講座 Vol.3」(松本祐子教授)、「英詩を読みとくー音・形・ことば」(村上幸大郎准教授)、「九州から発信する！メディア史研究の最前線」(金子龍司講師)となります。また、「ドキュメンタリー映画『中村地平』上映会・トーク」を楠田剛士准教授が企画し、12 月に行いました。

自主講座はその性質上、小規模な講座が多くなりますが、複数回にわたる連続講座もあれば、小中高生対象の講座や外国人を対象とした講座もあります。自主講座は本学の研究分野の広さを示し、地域の皆さんのさまざまな関心に応えることができる講座であると自負しています。

本学では、地域の具体的なニーズに対応し、地域の皆様のキャリアアップにも役立つリカレント教育にも力を入れています。令和 6(2024)年度には 2 つのプログラムを実施しました。「サービス業従事者のための接客韓国語講座」は申允珠講師の担当で、5 月から 7 月にかけて、また、「サービス業従事者のための接客英語講座」はヒュー ニコル講師の担当で、9 月から 12 月にかけて、それぞれ 10 回の講義、および修了試験を行い、合格者には認定証を発行しました。業務に直結する実践的な内容を学ぶことができ、参加された皆様のみならず、参加者の所属企業等からも高い評価をいただきました。これからも地域のニーズに対応できるようリカレント教育プログラムの充実を図っていききたいと思います。

公民館講座は宮崎市内の公民館と本学が共同で開催する講座です。本学教員が各地の公民館に出向いて講座を行っています。令和 6(2024)年度には大賀郁夫教授の「よみがえる江戸時代の宮崎」が 2 回シリーズで行われ、大変好評でした。

ご紹介したように、令和 6(2024)年度も各種講座を中心にたくさんの地域貢献活動を実施することができました。コロナ禍での体験も活かし、対面にオンラインを併用して、より多くの皆様に多彩なコンテンツをお届けすることができました。

宮崎公立大学はこれからも知の拠点として研究成果を地域に還元するとともに、地域のさまざまな課題解決に貢献しながら、地域のシンクタンクとしての役割を果たしていきます。宮崎公立大学の地域貢献活動への一層のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

I 生涯教育事業

1. 定期公開講座
2. 自主講座
3. 語学講座
4. リカレント教育プログラム
5. 開放授業
6. 公民館講座
7. その他講座・講演・講義

1. 令和6(2024)年度 定期公開講座

令和6年度 定期公開講座 *全体テーマ 「現代の言論空間と文化」			
講義	日 時	講 座 演 題	講 師
第1回	9月27日 (金) 18:30 ～ 20:00	開講あいさつ	川瀬 地域研究センター長 (現・地域連携・防災研究 センター長)
		「ヘイトスピーチの悪さをどう説明するか」	宮崎公立大学 准教授 八重樫 徹
第2回	10月4日 (金) 18:30 ～ 20:00	「語学教育における (イン) ポライトネス」	宮崎公立大学 准教授 リチャーズ ポール
第3回	10月11日 (金) 18:30 ～ 20:00	「ご当地ヒーロー天孫降臨ヒムカイザーの ライブ配信に出た新語・リサイクル語」	宮崎国際大学 教授 オチ デボラ
第4回	10月18日 (金) 18:30 ～ 20:00	「文化的なマイクロ・アグレッションと その回避法」	宮崎公立大学 教授 モーク カタリーナ
第5回	11月1日 (金) 18:30 ～ 20:00	「日本語教育における微妙なニュアンス の探求」	宮崎公立大学 特任講師 原田 真理 (現・特任准教授)
第6回	11月8日 (金) 18:30 ～ 20:00	「現代の対話における空間の文化的次元」	宮崎公立大学 教授 ビンガム スコット
		閉講あいさつ	川瀬 地域研究センター長 (現・地域連携・防災研究 センター長)

定期公開講座 （第1回講座 / 全6回）	
実施日時	令和6年9月27日（金） 18時30分～20時00分
会場	宮崎公立大学 103 大講義室
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	100名
受講者	対面：28名 オンライン：26名
配付資料等	各講座資料等
担当講師	演 題
宮崎公立大学 准教授 八重樫 徹	「ヘイトスピーチの悪さをどう説明するか」
【講座内容】 特定の人種その他の属性を持つ人々を標的とするヘイトスピーチは、標的となる人々にさまざまな危害を与え、抑圧します。ヘイトスピーチが言葉による暴力であることは明らかですが、言葉がどのようなメカニズムによって危害や抑圧を生むのか、ヘイトスピーチに対して社会がどのように対処すべきなのかについては、哲学や法学でさまざまな立場から論じられており、一致した見解は得られていません。この講義では、さまざまな哲学者の議論を参照しながら、ヘイトスピーチの悪さを説明することを試みます。その際、言葉によって人がおこなう活動には、他人とのあいだに約束事をつくりだす「コミュニケーション」の側面と、自分が意図する影響を他人に与える「マニピュレーション」の側面があることを確認します。その上で、ヘイトスピーチについて、コミュニケーションの側面から悪さを説明するアプローチと、マニピュレーションの側面から悪さを説明するアプローチを対比させます。	
【受講者感想 ※アンケートから抜粋】 ・最近ではSNSが普及し、多くの情報に触れることが多くなったがために、浅い知識を先入観で物事を捉えてしまい、差別的な発言をすることはよくあることだと思います。私たちはそのことに対し、もっと危機感を持ちながらSNSの利用及び対話を行う必要があると感じました。 ・日頃の自分の発言が意図せずして差別に繋がることもあるということを知り、改めて人と話をする時の自分の発言には配慮が必要だと思いました。	
 	

定期公開講座 （第2回講座 / 全6回）	
実施日時	令和6年10月4日（金） 18時30分～20時00分
会場	宮崎公立大学 103大講義室
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	100名
受講者	対面：23名 オンライン：28名
配付資料等	各講座資料等
担当講師	演 題
宮崎公立大学 准教授 リチャーズ ポール	「語学教育における（イン）ポライトネス」
【講座内容】 言葉は情報を伝達するためのものだけではなく、人間関係においても大きな役割を果たしているものです。例えば、依頼、拒否、謝罪などの時に無意識に文脈や相手に合わせて言葉を選び使用することが当然のことです。こうした現象（言葉と文脈「コンテクスト」）の関係を研究する学問が語用論といいます。 本講座では、言語学の観点から語用論の一つの大きな課題である（イン）ポライトネスを日本語（または英語）の日常的で、身近な例（例：依頼、拒否、謝罪）を通じて、言語的ポライトネスの複雑さを紹介します。また、第二言語学習者としての（イン）ポライトネスの習得の難しさを一緒に考えます。第二言語学習者は新しい単語・文法だけでなく、新しい文化・価値観を理解する必要があります。一方、言語教室で言語的ポライトネスが明示的に扱われることが珍しく、教師が直接的に教えることがあってもネイティブスピーカーより、不自然なほどの丁寧さを求めることがあり、そうでないものを不正解として見なされることがあります。より良い指導法を一緒に考えます。	
【受講者感想 ※アンケートから抜粋】 ・外国の方に日本語の使い方についての講義を受けるのは大変興味深かったです。文化が違えば同じ言葉の受け取り方も違って来るし、日本語のネイティブスピーカーである我々は気づかないうちに敬語とかを通して様々な差別をしているのかもしれない。 ・学生時代に言語学の授業を受けたが、面白くなくてサボってばかりいた。こんなに面白いものとは知らなかった。もう一度勉強してみようと思う。	
 	

定期公開講座 （第3回講座 / 全6回）	
実施日時	令和6年10月11日（金） 18時30分～20時00分
会場	宮崎公立大学 103 大講義室
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	100名
受講者	対面：21名 オンライン：17名
配付資料等	各講座資料等
担当講師	演 題
宮崎国際大学 教授 オチ デボラ	「ご当地ヒーロー天孫降臨ヒムカイザーのライブ配信に出た新語・リサイクル語」
【講座内容】 日本語は様々な書き方があり、古来より、言葉やイメージの使い方に遊び心のある文化です。現在、社会にはキャラクター文化があふれており、アンパンマンがテレビに登場した頃から、日本のキャラクター文化に関する研究が行われてきました。その中でも、宮崎で活躍しているご当地ヒーロー天孫降臨ヒムカイザーはその一例です。天孫降臨ヒムカイザーは古事記の舞台である宮崎の伝承（民話）を使っており、キャラクターや物語を言葉や映像に盛り込んだ魅力的なアクションのパフォーマンスは、子どもから大人の興味を引いています。 コロナウイルス対策が強かった時期には、天孫降臨ヒムカイザーのライブパフォーマンスは中止され、代わりにインターネットのライブストリーミングで活動しました。会場で提供されたイベントでは、見ているファンの間で行われていたチャットの言葉遊びの中で、新語やリサイクル語の出現がみられ、この現象について研究しています。 チャット内容を認知言語論で分析するとファン達の共通の文化的認識がわかります。 認知言語学を使ってチャット内容を分析することにより、ファンの人たちに共通する文化的認知を理解することができます。	
【受講者感想 ※アンケートから抜粋】 ・ヒムカイザーについては、名前程度しか存じ上げておりませんでした。講師の方の説明がわかりやすくヒムカイザーに対しての見方が変わった。ヒムカイザーが宮崎県の神様をモチーフにしたものであるということを知った。チャットが活発的で聞く分にも見る分にも楽しい講座だった。	
 	

定期公開講座 （第4回講座 / 全6回）	
実施日時	令和6年10月18日（金） 18時30分～20時00分
会場	宮崎公立大学 103 大講義室
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	100名
受講者	対面：28名 オンライン：26名
配付資料等	各講座資料等
担当講師	演 題
宮崎公立大学 教授 モーク カタリーナ	「文化的なマイクロ・アグレッションとその回避法」
【講座内容】 グローバル化が進む中、日本への移民、観光、教育交流は増加の一途をたどっています。異文化との出会いが増える中、共感を持ち、かつマイクロ・アグレッションといわれる振る舞いをとらない話し方を知ることは不可欠です。マイクロ・アグレッションとは、疎外された集団の一員であることを理由に、個人に対して否定的、ステレオタイプの、軽蔑的なメッセージを伝える言動で、捉えにくいものであり、多くの場合、意図的なものではありません。マイクロ・アグレッションは、誤解を助長させ、ステレオタイプを強化し、また、文化を超えた効果的で敬意ある（互いを尊重した）コミュニケーションの障壁となります。本講義は、英語で行われ、日本語のサポートは限られていますが、マイクロ・アグレッションについて、また、異文化間交流をそれぞれがより誠実に行うために、それらをどのように回避できるかを探ります。参加者は、他の参加者と意見を交わす機会が与えられます。（希望する言語で）	
【受講者感想 ※アンケートから抜粋】 ・自分が外国人に対して、普通に言ってしまいそうなのが、差別的発言になるのだと学ばせて頂きました。 ・国際交流をしながら、様々な外国の方と話したことがあるが、自分も気づかぬうちに相手を不快にさせているかもしれないと感じた。また、国際交流をしたいと思っている人だけでなく、日本人同士でもジェンダーについては経験しうる話なので、様々な人に知って欲しい内容だった。	
	

定期公開講座 （第5回講座 / 全6回）	
実施日時	令和6年11月 1日（金） 18時30分～20時00分
会場	宮崎公立大学 103大講義室
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	100名
受講者	対面：24名 オンライン：21名
配付資料等	各講座資料等
担当講師	演 題
宮崎公立大学 特任講師 原田 真理(現・特任准教授)	「日本語教育における微妙なニュアンスの探求」
【講座内容】 日本語学習者にとって、文法を理解し語彙を増やすことは大切ですが、それを自然な会話に活かすのは難しいと言われています。実際の教育現場では、教師が言語そのものだけでなく、文化的背景や微妙なニュアンスの違いをどのように教え、理解してもらうかに注意を払って指導しています。 この講座では、「敬語」や「男女や身分による言葉の違い」、「非言語コミュニケーション」など、日本語における文化的なニュアンスに焦点を当てながら、具体的な教育方法や教材の紹介を行います。さらに、インターネットやSNSの普及に伴う、日本語の使われ方やその変化についても考察していきます。	
【受講者感想 ※アンケートから抜粋】 ・最初のテーマを見た時、どういうことだろうって思ったのですが、外国人の方から見た日本語を知れたり、日本人でも間違っていまいそうな言葉だったり、ニュアンスを知れて、新しい世界が広がった気がしました。 ・外国の人からみた日本語を感じられて、日本語への興味を持ちました。 ・とても面白い授業でした。改めて、日本語の難しさや複雑さを勉強しました。	
 	

定期公開講座 （第6回講座 / 全6回）	
実施日時	令和6年11月8日（金） 18時30分～20時00分
会場	宮崎公立大学 103 大講義室
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	100名
受講者	対面：23名 オンライン：19名
配付資料等	各講座資料等
担当講師	演 題
宮崎公立大学 教授 ビンガム スコット	「現代の対話における空間の文化的次元」
【講座内容】 日常的な相互作用の中で、人間は意識的にも無意識的にも、自分とコミュニケーションをとる相手との間に保たれている空間（距離）を意識しています。私たちが相互作用の中で空間をどのように認識し、どのように利用するかは、「プロクセミクス・Proxemics」として知られる重要な文化的側面です。プロクセミクスは個人的な空間のことだけではなく、異なる社会的環境において、私たちがどのように境界を築き、他者とつながるかということでもあります。 多文化的な環境では、私たちが維持する空間は日本文化では普通かもしれないが、別の文化では不快であったり、失礼であったりする可能性があります。さらに最近では、COVID-19 の大流行もパーソナルスペースに対する私たちの見方を劇的に変えた。突然、私たちは社会的な距離の取り方のルールにより、物理的な近さを強く意識するようになりました。このことは、私たちの相互作用やコミュニケーションのあり方を変え、近接学が現代世界においていかに常に進化しているかを示しています。 この講義では、近接学がコミュニケーションにおける文化的ギャップをどのように理解し、埋めるのに役立っているかを探ります。基本的な概念と実際の例を検討することで、異文化間スキルを向上させる方法を探り、空間を理解することが、グローバル化した現代社会において、いかに私たちのつながりを強化するかを発見します。	
【受講者感想 ※アンケートから抜粋】 ・ 英語だけで講座を受けるのは初めてだったので、新鮮でとても良い機会になりました。	
 	

令和6年度 宮崎公立大学 定期公開講座

受講料
無料

統一テーマ

「現代の言論空間と文化」

広く地域に開かれた大学として、生涯学習の振興及び文化の向上に貢献することを目的に、公開講座を開講します。

今年度は言語・文化専攻所属の教員、及び宮崎国際大学の教員が講師となり全6回の講座を実施します。(zoomライブ配信あり)

この機会に本学の講座を体験してみませんか？



【日程】

令和6年9月27日～11月8日

全6回・毎週金曜日（10月25日除く）

【時間】

18時30分～20時

【会場】

宮崎公立大学 103大講義室及び
オンライン(zoomによるライブ配信)

※オンラインの方は前日までに申込みください。

※zoomのURL及びパスワードは前日までにメールにてお知らせします。

【定員】

200名（事前予約制）



【担当講師】

- ・第1回 八重樫 徹
宮崎公立大学 准教授
- ・第2回 リチャーズ ポール
宮崎公立大学 准教授
- ・第3回 オチ デボラ
宮崎国際大学 教授
- ・第4回 モーク カタリーナ
宮崎公立大学 教授
- ・第5回 原田 真理
宮崎公立大学 特任講師
- ・第6回 ビンガム スコット
宮崎公立大学 教授



詳しくは上記QRコードよりご確認下さい。

注 意 事 項

※zoomの方は事前予約（前日まで）といたします。

※お申込み受付後、特にご連絡は致しませんので、当日会場にお越しください。

※台風・災害等で講座を中止する場合は、本学ホームページで案内します。

※zoomの利用方法等について、本学による説明や技術的なサポートは致しかねます。

宮崎公立大学 地域研究センター

定期公開講座フライヤー

令和6年度 宮崎公立大学 定期公開講座

テーマ：各日程のテーマ・講師

**受講料
無料**

	第1回 9/27 (金)	「ヘイトスピーチの悪さをどう説明するか」 八重樫 徹 (宮崎公立大学 准教授)
	第2回 10/4 (金)	「語学教育における(イン)ポライトネス」 リチャーズ ポール (宮崎公立大学 准教授)
	第3回 10/11 (金)	「ご当地ヒーロー天孫降臨ヒムカイザーのライブ配信に出た新語・リサイクル語」 オチ デボラ (宮崎国際大学 教授)
	第4回 10/18 (金)	「文化的なマイクロ・アグレッションとその回避法」 モーク カタリーナ (宮崎公立大学 教授)
	第5回 11/1 (金)	「日本語教育における微妙なニュアンスの探求」 原田 真理 (宮崎公立大学 特任講師)
	第6回 11/8 (金)	「現代の対話における空間の文化的次元」 ビンガム スコット (宮崎公立大学 教授)



※zoomのURL及びパスワードは前日までにメールにてお知らせします。

申込方法
 (講座期間中も受け付けいたします。1講座だけの受講も可能です。)

郵便・FAX・グーグルフォームのいずれかの方法で、以下の事項を宮崎公立大学地域研究センター宛、お申込みください。

①受講希望日 ②対面希望・オンライン希望 ③氏名(ふりがな)
 ④連絡が取れる電話番号 ⑤メールアドレス



↑ 申込フォーム

注意事項	※zoomの方は事前予約(前日まで)といたします。 ※お申込み受付後、特にご連絡は致しませんので、当日会場にお越しください。 ※台風・災害等で講座を中止する場合は、本学のホームページで案内します。 ※zoomの利用方法等について、本学による説明や技術的なサポートは致しかねます。
-------------	---

お申込み・お問合せ先

宮崎公立大学地域研究センター
 〒880-8520 宮崎市船塚1丁目58 凌雲会館2階
 TEL: 0985-20-4772 FAX: 0985-20-4773
 メール: mmukoza@miyazaki-mu.ac.jp
 受付時間: 平日9:00~17:00



2. 令和6(2024)年度 自主講座一覧

	開催日時	開催者名	講座名
1	6月1日(土) 13:00～16:00	准教授 寺町 晋哉	進路選択における格差
2	6月12日(水)～ 全5回 18:30～20:00	教授 川瀬 隆千	大人のための社会心理学ゼミ
3	6月15日(土) 6月22日(土) 6月29日(土) 9:00～15:00	特任講師 現・特任准教授 原田 真理	JLPT直前対策講座
4	6月21日(金) 18:00～20:00	准教授 田村 恵理子	AI兵器は戦争をより人道化するか？
5	8月2日(金) 13:00～15:30	特任教授 西村 勇	教員のための朗読講座 「生徒と一緒に楽しむのが大前提、音読たのしいっちゃが！がゴール」
6	9月7日(土) 14:00～16:00	准教授 楠田 剛士	土呂久と文学 一川原一之『和合の郷ー祖母・傾山系土呂久の環境史』 を視座としてー
7	9月28日(土) 10:00～12:00	教授 川瀬 隆千	「私」の中に社会が見える ー高校生のための社会心理学入門ー
8	11月9日(土) 13:00～16:00	特任准教授 新村 拓也	みやざき街ウォーク
9	11月19日(火) 12月3日(火) 12月4日(水) 12月18日(水)	学長 辻 利則	教育機関・地域と連携した防災教育 (第14回ストリートウォッチング)
10	12月7日(土) 10:00～11:30 13:30～15:00	教授 松本 祐子	中高生のための「使える英語」講座Vol. 3
11	2月15日(土) 15:00～17:00	准教授 村上 幸大郎	英詩を読みとく-音・形・ことば
12	3月20日(木・祝) 13:00～16:00	講師 金子 龍司	九州から発信する！メディア史研究の最前線

講座名		進路選択における格差	
実施期間 回数	令和6年6月1日（土） 13時00分～16時00分	全 1 回	
会場	宮崎公立大学 103 大講義室		
講師	龍谷大学 准教授 松岡 亮二 東京大学 大学院生 田垣内 義浩 講座企画・司会 宮崎公立大学 准教授 寺町 晋哉		
共催者	なし		
後援	なし		
その他スタッフ	学生アルバイト2名		
受講料	無料		
配付資料等	なし		
募集定員	なし		
対象	一般市民		
受講者数	51名（対面 32名 オンライン 19名）		
【講座の内容】 「進路選択における格差」をテーマにして、教師研究を行っている講師2名を招き、講座を行った。 松岡氏は「教育格差・概論」、田垣内氏は「高校と進路選択の地域差」というテーマで話題提供を行って頂いた。 第1部は各テーマにつき50分の話題提供の後、フロアからの質問・意見に講師2名が応答した。 第2部は、話題提供内容をふまえ、グループに分かれて意見交換を行った。		【講座風景写真】 	
【講師コメント】 オンライン19名、対面32名の参加者数であり、参加者は非常に意欲的だった。テーマの内容からか、大学生だけでなく学校教員や高校生、一般市民の方など幅広く参加者されており、多様な立場から「進路選択における格差」について理解を深めることができた。意見交換時には非常に鋭い質問が数多く寄せられ、講座全体は非常に充実していた。グループに分かれた意見交換では講師の二人にも参加してもらい、活発な意見交換が行われていた。今後も研究領域の知見を市民の方々へ還元できるように、様々な企画に取り組んでいきたい			

2024年度 宮崎公立大学自主講座

進路選択における格差

近年、「格差」が注目を集め、大学進学などの教育達成においても、「個人の努力」を単純に奨励するだけでは不十分であることが知られてきました。その一方で、「格差」という言葉が独り歩きし、「何の格差なのか？」や格差によって「子どもたちの前にどのような障壁が存在しているのか？」など、格差の実態について詳しく知る機会は少ないのではないのでしょうか？

本講座では、「教育格差」を対象に研究しているお二人から話題提供して頂き、皆さんと一緒に進路選択における「格差」について考えていきます。

日時

2024年6月1日(土)13:00～16:00

会場

宮崎公立大学 103大講義室
(第1部のみオンライン配信あり)

参加費

無料 (定員なし・託児あり)

第1部 話題提供(オンライン配信あり) 司会:寺町 晋哉(宮崎公立大学)

松岡 亮二 氏 (龍谷大学) 「教育格差・概論」

田垣内 義浩 氏(東京大学大学院)「高校と進路選択の地域差」

第2部 意見交換会(対面のみ) 司会:寺町 晋哉(宮崎公立大学)

グループに分かれて発表内容に関する意見交換を行います。

※ 当日のプログラム、参加申込の方法につきましては裏面をご覧ください。

自主講座フライヤー

プログラム

開会行事	13:00～13:10
松岡氏の話題提供	13:10～14:00
休憩	14:00～14:10
田垣内氏の話題提供	14:10～15:00
休憩	15:00～15:10
意見交換会	15:10～15:50
閉会行事	15:50～16:00

※ フォーラム終了後、本フォーラムの内容に関する簡単なアンケートにご協力下さい。

参加申込方法

右のQRコードから参加予約フォームにアクセスし、氏名・所属・連絡先（メールアドレス）等必要事項を入力の上、送信してください。

※当日参加可（対面のみ）ですが、事前申し込みをお願いします。

オンライン配信を希望される方は、5月28日（火）、託児を希望される方は、5月19日（日）までにはお申し込みください。

※オンライン配信はZoomを使用します。パスワード等はEメールにてお送りします。

（ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。）



お問い合わせ・アクセス

ーお問い合わせー

〒880-8520 宮崎市船塚1丁目1-2

宮崎公立大学 地域研究センター（凌雲会館2階）

TEL:0985-20-4772

（土・日、祝日を除く9:00～17:00）

ー会 場ー

宮崎公立大学 103大講義室



講座名		大人のための社会心理学ゼミ	
実施期間 回数	令和6年6月12日(水)、7月10日(水)、9月11日(水) 10月9日(水)、12月4日(水) 18時30分～20時00分	全5回	
会場	宮崎公立大学 凌雲会館 共同研究室		
講師	宮崎公立大学 教授 川瀬 隆千		
共催者	なし		
後援	なし		
その他スタッフ	なし		
受講料	無料		
配付資料等	なし		
募集定員	15名		
対象	一般市民		
受講者数	受講者数：15名（のべ受講者：57名）		
【講座の内容】		【講座風景写真】	
本講座は、講師による一方的な講義ではなく、参加者同士がコミュニケーションを深められるように、定員15名の少人数ゼミ形式で行った。6月から12月まで毎月1回のペースで実施し（都合により1回休講）、1回の時間は90分間であった。 毎回の講座では、公立大における社会心理学の講義内容をベースとしたレジュメに基づき、講師から心理学、社会心理学に関するトピックを提示した後、参加者からの疑問、質問に答えたり、参加者同士で日頃感じていることについて意見交換したりして、社会心理学に関する理解を深めた。 少人数ゼミ形式のため、参加者は徐々に打ち解け、活発な議論ができた。時には思わぬ方向に議論が進むこともあったが、それも少人数ゼミ形式の醍醐味であろう。			
【講師コメント】			
都合により1回休講し、5回開催になってしまったが、毎回10名から12名が参加し、賑やかに充実した時間を過ごすことができた。社会心理学を学ぶのが初めてという参加者も多かったが、講座の内容を自分自身の生活や仕事に引き付けて考えられ、日常の視点から疑問や質問をされ、活発に意見交換されていた。 担当講師としても日頃接している学生とは違う社会人の視点からの質問には考えさせられることが多かった。緊張感を持って楽しく講座を行うことができたと思う。 参加者同士のコミュニケーションの機会にもなったようだが、もう少し回数が多くても良かったかもしれない。また、講座以外の懇親の場を作ればより良かったかもしれない。 色々反省はあるが、市民講座や学び直しの新しい形を示すことができた。今後はこの少人数ゼミ形式の講座をより充実させていきたいと思う。			

宮崎公立大学自主講座

大人のための 社会心理学ゼミ

少人数ゼミ形式での講座で、参加者同士の話し合いの場を提供します。日々の生活を振り返り、心理学的な視点から見直すことで、さまざまな気づきが得られるのではないかと思います。

講師 **川瀬 隆千**
(宮崎公立大学 教授)

日時 **全6回 18:30~20:00 (水)**
第1回 6/12 第2回 7/10
第3回 9/11 第4回 10/9
第5回 11/6 第6回 12/4

会場 **宮崎公立大学
凌雲会館 共同研究室等**

対象者 **一般市民**(全6回をおおむね受講できる方)

定員 **10名程度**(応募多数の場合抽選)

受講料 **無料**



申込方法

申込QRコードよりお申込みください。

URL: <https://forms.gle/KPFuJ3XKtuZ2HZFe6>

(ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。)



申込QRコード

申込締切 **6月5日 (水)**



お問い合わせ先

宮崎公立大学 地域研究センター (凌雲会館2階) TEL: 0985-20-4772 (土・日、祝日を除く9:00~17:00)
E-mail: mirrc@miyazaki-u.ac.jp

講 座 名		JLPT 直前対策講座	
実 施 期 間 回 数	令和 6 年 6 月 15 日 (土)、6 月 22 日 (土)、6 月 29 日 (土) 9 時 00 分～15 時 00 分	全 3 回	
会 場	宮崎公立大学 凌雲会館 共同研究室		
講 師	日本語教師 内藤 みゆき 日本語教師 荒井 圭美 宮崎公立大学 特任講師（現・特任准教授）原田 真理		
共 催 者	なし		
後 援	なし		
その他スタッフ	本学学生 3 名		
受 講 料	無料		
配付資料等	なし		
募 集 定 員	10 名		
対 象	宮崎市在住外国人（高校生以上）		
受 講 者 数	受 講 者 数：10 名（のべ受講者：22 名）		
【講座の内容】 在住外国人を対象に、日本語能力試験（JLPT）対策講座を実施した。 受講者には事前にクイズ形式の課題を解いてきてもらい、講座の最初にその解説や質疑応答を行なった。『はじめての日本語能力試験 合格模試 3 回分』のテキストを使用し、以下の内容について説明した。 ・試験の流れと問題の種類 ・時間配分 ・リスニングのポイント その後、語彙・文法・読解問題を実際に解き、解説を行なった。問題の解答後、その内容を基にした会話練習を実施した。 講座の合間には本学の学生も参加し、受講者との交流を通じて実践的な会話練習の場を提供した。これにより、受講者は学生の意見や発言に対して反応し、会話を広げる方法を実際に体験した。		【講座風景写真】 	
【講師コメント】 初めての試みであったが、受講者のうち 7 割が社会人で、勉強を続けたいという意欲が高く、もっと日本語で話したい、という思いがあることがわかった。 受講者からは、問題の解答だけでなく、実際の試験に近い環境で練習できた点が好評だった。また、講師からの具体的なフィードバックにより、自分の弱点を明確に把握することができ、今後の学習に役立てることができたという意見があった。講座時間を実際の試験と同じ時間で受けたいという要望があったため、次回は本番と同じ時間帯を設定し実施したいと考えている。 講座の合間の交流会では、受講者と学生が所属機関を離れて異文化交流を楽しんでいる様子が見られた。今後、さらにこのような機会を本学で増やしていきたいと考えている。			

Miyazaki Municipal University

JLPT

(Japanese Language
Proficiency Test)

3SESSIONS

FREE

LAST MINUTE COURSES

TARGET: Foreign residents in city
UP TO 10 participants.

CLASS 【N1】 9:00-10:30
【N2】 10:30-12:00
【N3】 13:30-15:00
【N4】 15:00-16:30

June, 15(Sat)
June, 22(Sat)
June, 29(Sat)

PLACE Miyazaki Municipal University
Ryoun Kaikan 2F

HOW TO APPLY Please apply using
the QR code or the
following URL
Deadline : June, 8



<https://forms.gle/mdsGyinRUHkksLdU9>

APPLICATION&INQUIRY

Miyazaki Municipal University Area Study Center (Ryoun Kaikan 2F)
TEL : 0985-20-4772 (Excluding Saturdays, Sundays and
holidays 9:00~17:00)
E-mail mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

LECTURERS Miyazaki Municipal
University Lecturers
Mari Harada and Others



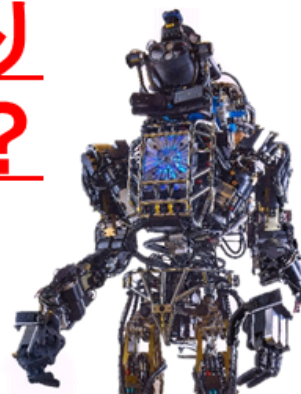
講座名		AI 兵器は戦争をより人道化するのか？	
実施期間 回数	令和 6 年 6 月 21 日（金） 18 時 00 分～20 時 00 分	全 1 回	
会場	宮崎公立大学 交流センター 多目的ホール		
講師	宮崎公立大学 准教授 田村 恵理子		
共催者	なし		
後援	なし		
その他スタッフ	本学学生 2 名		
受講料	無料		
配付資料等	なし		
募集定員	50 名程度		
対象	なし		
受講者数	49 名		
【講座の内容】		【講座風景写真】	
AI の軍事利用が進み、中でも兵器に AI が組み込まれた AI 兵器は、正しくは致死性の自律性兵器（LAWS）と呼ばれる。LAWS の規制に関し諸国は 10 年以上毎年議論を重ねているが、肝心の LAWS の定義さえ合意できていない。LAWS に対しては倫理的な観点から賛否があり膠着している。他方で、LAWS が使用されたとしても国際人道法が適用されることでは諸国は一致している。では、LAWS、正確にはそのコントローラーである「機械学習 AI アルゴリズム」は国際人道法を人間よりよく遵守できるのか？そもそも人間でなく機械が法的判断を下すことは想定されているのか、また、それは実質的に何を意味するのか？法の名宛人は機械でなく人間であり、機械のもたらす違法の結果に責任を負うのも人間であるとして、具体的にどの人間が何を根拠にどのような責任を負うのか？これらは、国際人道法さらには法全体に突き付けられた、未知の課題である。			
【講師コメント】			
募集定員をほぼ満了受講者が集まった。幅広い年齢層で、高校生もかなりいた。1 時間 30 分の講演にもかかわらず、多くの人が真剣に聴いているようであった。30 分間の質疑応答でもたくさんの手が上がり、高校生も 2 名意見を述べた。とても興味深い、有意義な講座となった。			

宮崎公立大学自主講座

無料託児あり（小学生以下）

AI兵器は戦争をより 人道化するか？

AI兵器の特徴を概観し、国際法（とくに国際人道法）の視点から何が問題として一現在進行形で一議論されているのかを明らかにし、考えを深めてみませんか。



講師 田村 恵理子（宮崎公立大学 准教授）

日時 6月21日（金） 18:00～20:00

会場 宮崎公立大学 交流センター・多目的ホール

対象者 どなたでも（一般、大学生、高校生等）

定員 50名程度
※当日参加可ですが、事前申し込みをお願いいたします。

受講料 無料

無料託児について（申込締切 6月12日（水））

本講座では、交流センター内に無料託児（小学生以下）を準備します。託児希望の方は、下記のQRコードより必要事項を入力してください。

申込方法

申込QRコードよりお申込みください。

URL : <https://forms.gle/JK4jTByBL8TBJKYA9>

※ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。
※ 迷惑メール防止設定をされている方は、必ず「@miyazaki-mu.ac.jp」からのメールを受信できるように設定をお願いします。



申込QRコード



お問合せ先 宮崎公立大学 地域研究センター（凌霄会館2階） TEL：0985-20-4772（土・日、祝日を除く9:00～17:00）
E-mail muurrc@miyazaki-mu.ac.jp

講座名	教員のための朗読講座 「生徒と一緒に楽しむのが大前提、音読たのしいっちゃんが！がゴール」	
実施期間 回数	令和6年8月2日（金） 13時00分～15時30分	全 1 回
会場	宮崎大学附属小学校	
講師	元NHKアナウンサー 杉尾 宗紀 講座企画：宮崎公立大学 特任教授 西村 勇	
共催者	宮崎県小学校教育研究会国語部会	
後援	なし	
その他スタッフ	なし	
受講料	無料	
配付資料等	なし	
募集定員	10名	
対象	宮崎県小学校教育研究会国語部会 会員	
受講者数	50名	
【講座の内容】 今回の講座は大学リカレントの研究も踏まえ、小学校の教員向けとして自主講座を開催いたしました。宮崎県小学校教育研究会国語部会に御協力頂き夏季研修会の一部に弊学自主講座を組み入れて「生徒と一緒に楽しむのが大前提、音読たのしいっちゃんが！がゴール」を目的に「言葉」を噛み砕き、解釈し音読を行って頂きました。二人一組で練習した後に音読発表を数名が行い、表現のヒントを講師から説明し、特に「引き込む」という方法などを体感して頂きました。 参加された教員の皆さんは短い時間の中で多くの発見を頂いた様です。		
【講座風景写真】 		
【講師コメント】 午前中の研究会から参加させていただき、いきなり生徒さんの学習内容のレベルの高さにびっくり！それに怯むことなく向き合おうとする先生方の姿勢に心打たれました。 講座では、とにかく音読は楽しいということを生徒さんに伝えて欲しいと強調したつもりですが、先生方の腹に落ちていればいいのですが。講座で取り上げた発声から読み方までの具体的なノウハウもあくまで音読を楽しむためのものだとして理解していただきたいです。先生が声に出して読むことが楽しくなれば、生徒さんにも自然に伝わります。 時間が限られた中、バタバタで進めることになったにもかかわらず、真剣に食らいついて来ていただき感謝しかありません。もっと色々知りたいとか、生徒たちにダイレクトに教えて欲しいとかあれば、遠慮なくお声掛け下さい。 暑い中本当にお疲れ様でした。		

講 座 名	土呂久と文学 ―川原一之『和合の郷―祖母・傾山系土呂久の環境史』を視座として―	
実施期間 回数	令和6年9月7日（土） 14時00分～16時00分	全 1 回
会 場	宮崎公立大学 103 大講義室	
講 師	記録作家・宮崎大学客員教授 川原 一之 宮崎公立大学・宮崎大学非常勤講師 茶園 梨加（現・宮崎公立大学 准教授） 講座企画・司会 宮崎公立大学 准教授 楠田 剛士	
共 催 者	なし	
後 援	なし	
その他スタッフ	なし	
受 講 料	無料	
配付資料等	なし	
募集定員	なし	
対 象	一般市民	
受講者数	38名	
【講座の内容】 2部構成とし、まず第1部では川原一之氏による講演を行った。話題は6つあり、①記録作家・上野英信との関係、②ガリ版の「土呂久つづき話」と最初の著書『口伝亜砒焼き谷』における語りの創作、③『土呂久羅漢』における文体の工夫と反省、④人物ルポによる表現の模索、⑤『和合の郷』の構成と主題、⑥土呂久の記録文学の今後の指針について、丁寧に解説された。 続く第2部では、川原氏、茶園氏、楠田氏による鼎談を行った。茶園氏からは、宮崎出身ではない川原氏がどのように土呂久の方言を文字化していったかという質問や、林えいだいや松下竜一などの先行する記録文学者の影響についてコメントがあった。楠田からは、「土呂久つづき話」における振り仮名の増加や、主語を伏せた新聞的記述から「ぼく」という一人称の使用という変化、古老の語りなど、文体に関するコメントがあった。		
【講座風景写真】 		
【講師コメント】 50年以上にわたって土呂久の亜砒酸公害問題に携わってこられた川原氏ならではの、詳細かつ丁寧な講演が印象的であった。鼎談という形で、川原氏の講演内容をさらに深め、広げることができたと思う。参加者については、事前申し込み以外にも当日参加者も多く来場し、土呂久問題への関心の高さが窺えた。		

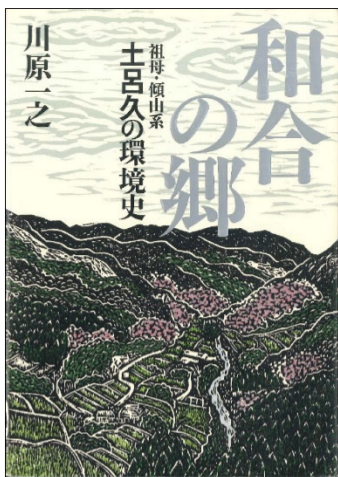
2024 年度 宮崎公立大学自主講座

土呂久と文学

——川原一之『和合の郷—祖母・傾山系土呂久の環境史』を視座として——

宮崎県高千穂町土呂久地区のヒ素公害問題に長年取り組んで来られた川原一之さんの新刊が刊行されました。土呂久の歴史・環境を、文学から考えるトークイベントを開催します。

2024 年 9 月 7 日 (土) 午後 2 時～午後 4 時 (午後 1 時 30 分 開場)



第 1 部 講演 (午後 2 時～午後 2 時 50 分)

川原 一之 氏

1947 年生まれ。記録作家、宮崎大学客員教授。
朝日新聞記者時代から土呂久の公害問題取材し、
ヒ素中毒患者を支援する活動が続けている。
著書に『口伝亜砒焼き谷』『土呂久羅漢』他多数。

第 2 部 鼎談 (午後 3 時～午後 4 時)

川原 一之 氏

茶園 梨加 (宮崎公立大学他非常勤/「西日本文学展望」評者)

楠田 剛士 (宮崎公立大学准教授/日本近現代文学研究者)

会 場 : 宮崎公立大学 103 大講義室 定 員 : 200 名 (受講無料)

申 込 : QR コードを読み取り、必要事項をご入力ください

※当日参加も可ですが事前申し込みをお願いいたします

無料託児について 申込締切 9 月 1 日 (日)

大学内に無料託児所 (小学生以下) を準備します。

託児希望の方は、QR コードより必要事項をご入力ください。

※ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営および
統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。



宮崎公立大学 地域研究センター 電話: 0985-20-4772 (土・日、祝を除く 9:00～17:00)
メールアドレス: mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

講 座 名	「私」の中に社会が見える ―高校生のための社会心理学入門―	
実 施 期 間 回 数	令和6年9月28日（土） 10時00分～12時00分	全 1 回
会 場	宮崎公立大学 103 大講義室	
講 師	宮崎公立大学 教授 川瀬 隆千	
共 催 者	なし	
後 援	なし	
その他スタッフ	本学学生3名	
受 講 料	無料	
配付資料等	あり	
募 集 定 員	なし	
対 象	高校生・一般市民	
受 講 者 数	46名（対面23名、オンライン22名）	
【講座の内容】 本講座は高校生を対象に、個人と社会の関係について解説したものである。 「私」は社会の産物である。「私」は周りの人々や文化の影響を受けて作られる。そして、そのようにして作られた「私」が、今度は周りの人々や社会に影響を及ぼす。このように、「私」と「社会」は密接につながっている。 本講座では、社会心理学の考え方や研究方法の解説も交えながら、「私」と「社会」の関係について、特に、同調、自己呈示、文化的自己観、少数派影響の4つの観点から検討した。 進路情報なども提供しながら、社会の一員として責任を果たしながら、社会をより良い方向に変えていくことについて考えを深めた。		
【講座風景写真】 		
【講師コメント】 高校生向けの講座であったが、保護者など一般の方も受講された（8名）。 心理学に興味を持っている生徒も多かったようで、参加者はたいへん熱心に講義を聞いてくれた。講義のレベル、進め方、講義時間などはちょうど良いと評価され、全体に大変満足・満足が90%であった。 「社会心理学を詳しく学べる機会になった」「わかりやすく、楽しみながら受講できた」「大学の講義のイメージがつかめた」「同調や自己呈示など専門的なことを知ることができた」などの講義内容は良く理解できたようである。また、「高校生も社会とつながっていることがわかった」「自分と社会の関わりがわかった」「一人一人の力は決して小さくないと思った」「自分たちの力で風を吹かせることができると知り、ワクワクしました」などの感想が寄せられ、講義の趣旨が伝わったと感じた。		



宮崎公立大学自主講座

「私」の中に 社会が見える

— 高校生のための社会心理学入門 —

高校生に心理学や社会心理学に興味を持って
もらうための、体験授業的な講座です！

令和6年9月28日（土）
時間：10時00分～12時00分



「私」は社会の産物です。「私」は周りの人々や文化の影響を受けて作られるのです。そして、そのようにして作られた「私」が、今度は周りの人々や社会に影響を及ぼします。社会心理学の考え方や研究方法の解説も交えながら、私と社会の関係を探り、「私とは何か？」を考えます。

講師 川瀬 隆千 宮崎公立大学 教授

受講方法

対面受講

（宮崎公立大学 103大講義室）

OR

オンライン受講（Zoomを利用）

定員

- ・対面受講200名
- ・オンライン受講は、定員は設けません。

受講料

無料

申込方法

お申込みはGoogleフォームにて受付いたします。
右のQRコード読み取り必要事項を入力して申込受付期間中に送信してください。



申込締切

9月23日（月・祝）

★締切後、対面受講希望の方には、講座会場等の案内を、オンライン申込の方には、ZOOMパスワード等をメールにてお送りします。

（ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。）

お問合せ先

宮崎公立大学地域研究センター（凌雲会館2階） TEL：0985-20-4772（土・日、祝日も除く9:00～17:00）

講 座 名		みやざき街ウォーク	
実 施 期 間 回 数	令和6年11月9日（土） 13時00分～16時00分	全 1 回	
会 場	みやざき晴マチ 中央通一番街店		
講 師	宮崎公立大学 特任准教授 新村 拓也		
共 催 者	宮崎情報ビジネス専門学校 日本語科		
後 援	なし		
その他スタッフ	なし		
受 講 料	無料		
配付資料等	なし		
募 集 定 員	なし		
対 象	宮崎情報ビジネス専門学校（MSG）の留学生、宮崎公立大学の学生		
受 講 者 数	受 講 者 数：30 名		
【講座の内容】		【講座風景写真】	
国際交流と地域理解を目的に留学生と日本人学生が共に中心市街地を探検するプログラム。 前半ではアイスブレイクとグループ分け（各グループ3名）等を行い、その後各商店街に出て、与えられたミッションに従って活動した。一番街から宮崎駅前商店街あみ～ろ～どまでの範囲で地域内の風景を切り取った10の写真を各グループにミッションとして共有し、その場所を当てるという内容で、見つけたらその場所で集合写真を撮影するという方法で、各グループが活動した。活動終了後、再度集合し、中心市街地を歩きながら感じたこと、気づいたことを全体でシェアする時間を設け、最後に集合写真を撮って終了した。		 	
【講師コメント】			
宮崎情報ビジネス専門学校と本学の間に位置している宮崎市の各商店街は近場ではあるけれど、普段の生活の中では決まったところの移動に限られてしまうため、様々なお店や通り、風景、人がいることに気づきにくいものです。今回の取り組みは、そうした身近な地域の中にも知らない新しい世界が広がっており、そこで普段では気づかないような新たな発見をすることで、より地域に愛着を持って学校生活を送ってほしい。そうした願いも込めて実施させていただきました。 運営にあたりまして、宮崎情報ビジネス専門学校日本語科の皆さま、株式会社コンフォートダイナー様には大変お世話になりました。有難うございました。			



みやざき 街ウォーク

みやざきのまちなかを
留学生と大学生でグルー
プになって探検しよう！

11/9 (土) 13:00 ↓ 16:00

**@宮崎市中心市街地
(一番街～宮崎駅周辺)**



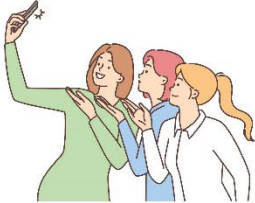
**参加は
こちらから！**



まずはグループ
みんなでミッション
内容を確認！



まちなかへGo！
ミッションクリア
できるかな？



クリアしたら
みんなで写真を
撮ろう！

問い合わせ：宮崎公立大学 地域研究センター 新村
shinmura@miyazaki-mu.ac.jp

講座名	教育機関・地域と連携した防災教育（第14回ストリートウォッチング）				
実施期間数	事前授業：6年11月19日（火）：1回 地域調査：6年12月3日（火）、6年12月4日（水）：2回 事後授業：6年12月18日（水）：1回	全4回			
会場	事前授業：西池小学校　地域調査：中央西自治区内				
講師	京都大学 防災研究所 助教 山下 裕亮（現 宮崎公立大学 准教授） 気象予報士 尾崎 尚之 宮崎公立大学 学長 辻 利則 宮崎公立大学 特任准教授 新村 拓也				
共催者	西池小学校、中央西まちづくり推進委員会				
後援	なし				
その他スタッフ	なし				
受講料	無料				
配付資料等	なし				
募集定員	200名				
対象	西池小学校関係者				
受講者数	小学校参加者： 130名（学生＋教員） 地域の参加者： 30名 学生： 12名				
【講座の内容】 本活動は、将来を担う子供たちへの防災教育として、平時から災害に備えた取り組みを、高齢者、障がい者など含めて実践活動を行いながら、地域の役割、自分にもできることを理解してもらい、さらに子供たちを通して保護者等の若い世代の地域参加を促すことを目的としている。 事前授業においては、講師に山下氏を迎え、地震や津波、洪水など災害時に必要な心構え、特に普段から考えておくべきことについて学んだ。 地域調査は、危険箇所や災害時に重要となる避難場所などを知るために、地域住民の方に過去の災害の話を聞いたり、地域の施設に行ったりと地域の災害時の対応について話を聞いた。本学の学生は地域の方と一緒に同行し、サポート役として参加した。 その後、本年度は、事後授業として、ストリートウォッチングを終えての振り返りを行った。講師に新村氏と東日本大震災を経験した気象予報士の尾崎氏の方を迎え、小学生には今後の災害への対応について考えてもらった。 【講座風景写真】  <tr><td colspan="3"> 【講師コメント】 本年度は、事前授業、地域調査に加え、コロナ禍前に実施していた事後授業も小学校からの要望もあり、実施した。この取り組みは、地域、小学校、本学の連携も目指したものとなっているが、本年度は事前の打ち合わせを密に行い、事前授業講師の山下氏、事後授業講師の新村氏の協力もあって、充実した講座を実施することができた。特に、地域調査を担当して頂いた中央西まちづくり推進委員会の地域の皆さんには、調査する施設との連絡調整、地域を回る地図作成、地域の過去の災害をまとめた冊子の作成など準備をして頂いたことに感謝するとともに、地域の重要性について再認識した。この活動は、本年度で14回となるが、令和6年8月8日には宮崎県内で日向灘を震源とする最大震度5強の地震が発生し、その後も余震が続いている。そのため、この活動は地域からのニーズも高く、今後も継続するとともに他地域へも広めていきたい。 </td></tr>			【講師コメント】 本年度は、事前授業、地域調査に加え、コロナ禍前に実施していた事後授業も小学校からの要望もあり、実施した。この取り組みは、地域、小学校、本学の連携も目指したものとなっているが、本年度は事前の打ち合わせを密に行い、事前授業講師の山下氏、事後授業講師の新村氏の協力もあって、充実した講座を実施することができた。特に、地域調査を担当して頂いた中央西まちづくり推進委員会の地域の皆さんには、調査する施設との連絡調整、地域を回る地図作成、地域の過去の災害をまとめた冊子の作成など準備をして頂いたことに感謝するとともに、地域の重要性について再認識した。この活動は、本年度で14回となるが、令和6年8月8日には宮崎県内で日向灘を震源とする最大震度5強の地震が発生し、その後も余震が続いている。そのため、この活動は地域からのニーズも高く、今後も継続するとともに他地域へも広めていきたい。		
【講師コメント】 本年度は、事前授業、地域調査に加え、コロナ禍前に実施していた事後授業も小学校からの要望もあり、実施した。この取り組みは、地域、小学校、本学の連携も目指したものとなっているが、本年度は事前の打ち合わせを密に行い、事前授業講師の山下氏、事後授業講師の新村氏の協力もあって、充実した講座を実施することができた。特に、地域調査を担当して頂いた中央西まちづくり推進委員会の地域の皆さんには、調査する施設との連絡調整、地域を回る地図作成、地域の過去の災害をまとめた冊子の作成など準備をして頂いたことに感謝するとともに、地域の重要性について再認識した。この活動は、本年度で14回となるが、令和6年8月8日には宮崎県内で日向灘を震源とする最大震度5強の地震が発生し、その後も余震が続いている。そのため、この活動は地域からのニーズも高く、今後も継続するとともに他地域へも広めていきたい。					

講 座 名		中高生のための「使える英語」講座 Vol.3	
実 施 期 間 回 数	令和6年12月7日（土） 中学生（3級レベル）10時00分～11時30分 高校生（準2級レベル）13時30分～15時00分	全 2 回	
会 場	宮崎公立大学 凌雲会館 共同研究室		
講 師	宮崎公立大学 教授 松本 祐子		
共 催 者	なし		
後 援	なし		
その他スタッフ	本学学生7名		
受 講 料	無料		
配付資料等	ワークシート		
募 集 定 員	各30名		
対 象	中学生・高校生・一般市民		
受 講 者 数	のべ25名		
【講座の内容】 導入部分で英語を使った自己紹介の活動を行った。 次に、文法の「コア」を理解することの重要性について説明した。次に、今回のターゲットである「進行形」について、その「コア」の意味を解説した。事例や練習を取り入れ、適宜、学生アルバイト（TA）に入ってもらい、グループで確認作業を行った。 最後に、進行形を使う実践活動を2つ行った。		【講座風景写真】 	
【講師コメント】 参加者の方々は、積極的に活動に取り組んで楽しんでいただけたようでした。一般の参加者も比較的多く、学生さんにとっては良い刺激となりました。 公立大の学生アルバイトの人たちも積極的にサポートしてくれました。 来年度は開催時期を調整して、より多くの方に参加していただけるよう工夫したいです。			

R 6 年 度 宮 崎 公 立 大 学 自 主 講 座

中高生のための 「使える英語」講座 vol. 3



「語彙や文法を暗記するのが大変！」と思っているみなさん、
もっと効率的に学べて、使える英語に出来る方法があります。
今回は2つのレベルに分けて「進行形」について学びます。
英語が苦手な人も、得意な人も、一緒に試してみませんか？
※成人の方も受講できます

講 師 松本 祐子 (宮崎公立大学 教授)

日 時 12月7日(土)

●10:00-11:30 (英検3級レベル) *成人可

●13:30-15:00 (英検準2級レベル) *成人可

会 場 宮崎公立大学 凌雲会館2階 共同研究室

定 員 各回30名程度 (応募多数の場合抽選)

受講料 無料



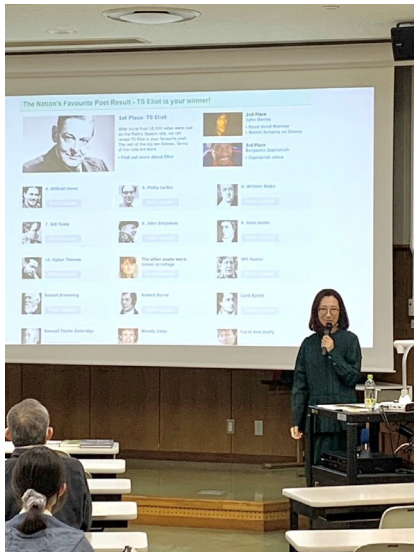
←QRコードから申し込み
締め切り:12月1日(日)



※ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。
※ 受講の案内は、メールで送信しますので、迷惑メール防止設定をされている方は、必ず「@miyazaki-mu.ac.jp」からのメールを受信できるように設定をお願いします。



お問合せ先 宮崎公立大学 地域研究センター (凌雲会館2階)
TEL: 0985-20-4772 (土・日、祝日を除く9:00~17:00)
E-mail mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

講座名		英詩を読みとく ―音・形・ことば	
実施期間 回数	令和7年2月15日（土）15時00分～17時00分	全 1 回	
会場	宮崎公立大学 103 大講義室		
講師	京都府立大学 准教授 西谷 茉莉子 講座企画・司会 宮崎公立大学 准教授 村上 幸太郎		
共催者	なし		
後援	なし		
その他スタッフ	本学学生3名		
受講料	無料		
配付資料等	なし		
募集定員	30名		
対象	市民の方々および学生		
受講者数	25名		
【講座の内容】		【講座風景写真】	
参加者の異文化に対する関心を高め、英語や英米文学に対する知的好奇心を刺激することを目的に、英語で書かれた詩の解説を行った。 『不思議の国のアリス』やマザー・グースなどの日本でも馴染みのあるものや、トーマス・ハーディやディラン・トーマスなどの芸術性の高い詩、時事性の高いアマンダ・ゴーマンの作品など幅広いジャンルの詩を扱い、それぞれの詩におけるリズムや韻律、音について説明がなされた。 また、詩人の伝記的事実や北アイルランド問題などの背景知識にも触れ、作品だけでなく、英米の文化・歴史についても理解が深まる講座となった。			
【講師コメント】			
アンケートの回答が示すように、おおむね講座の内容に満足してもらえたようである。具体的には「日本ではなかなか触れる機会がない英詩を今回学べてよかった」、「詩が楽しいものだと分かった」などといった回答が寄せられた。授業では普段詩をあまり扱っていないので、学生にとっては刺激的な講座になったと思う。また、市民の方々にも非常に熱心に講座に参加していただき、講演終了後の質疑応答でも活気のあるディスカッションがなされた。			



英詩を読みとく ——音・形・ことば

講師：西谷 茉莉子（京都府立大学 准教授）
進行：村上 幸大郎（宮崎公立大学 准教授）

英語の詩というと難解なイメージを持つ方もおられるかもしれませんが、宗教詩や恋愛詩、童謡からラップまで、裾野が広くさまざまな楽しみ方ができるのが英詩の強みです。詩を味わうために決まったルールはありませんが、読み解くための「ヒント」を知っているとより豊かに味わうことができます。本講座では、音・形・ことばを手がかりに英詩の魅力を探ります。

日 時：2025年2月15日（土）15:00～17:00

対象者：どなたでもお気軽にご参加ください

受講料：無料

会 場：宮崎公立大学 103大講義室

申込方法：当日参加も可能ですが、事前申込を
QRコードよりお願いいたします



※ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営及び統計分析に使用し、これらの目的以外には使用することはありません。
※受講の案内をメールでお知らせします。迷惑メール防止設定をされている方は、必ず「@miyazaki-mu.ac.jp」からのメールを受信できるように設定をお願い致します。

お問合せ先 宮崎公立大学 地域交流センター（凌雲会館2F）

TEL: 0985-20-4772（土・日・祝日を除く9:00～17:00）

E-mail: mmurro@miyazaki-mu.ac.jp



講 座 名		九州から発信する！メディア史研究の最前線	
実 施 期 間 回 数	令和 7 年 3 月 20 日（木・祝） 13 時 00 分～16 時 00 分		全 1 回
会 場	宮崎公立大学 103 大講義室		
講 師	鹿児島大学 法文学部 特任助教 中嶋 晋平 北九州市立大学 基盤教育センター 准教授 藤田 俊 講座企画・司会 宮崎公立大学 講師 金子 龍司		
共 催 者	なし		
後 援	なし		
その他スタッフ	なし		
受 講 料	無料		
配付資料等	レジメ 1 部		
募 集 定 員	50 名程度		
対 象	なし		
受 講 者 数	17 名		
【講座の内容】 ①趣旨説明（金子） ②同郷者メディア『奄美』にみる終戦直後の鹿児島と奄美出身者（中嶋講師） ――質疑応答―（質問 2 名） ②昭和戦前期の架空戦記と言論統制―『小説日米戦未来記をめぐって』（藤田講師） ――質疑応答―（質問 1 名） ③閉会の辞（金子）		【講座風景写真】  	
【講師コメント】 近年、メディア史の研究者の九州への着任が続いていることから、中嶋晋平氏（鹿児島大学）、藤田俊氏（北九州市立大学）をお招きし、最先端の研究成果を一般の方々向けに還元いただきました。 中嶋氏のご報告「同郷者メディア『奄美』にみる終戦直後の鹿児島と奄美出身者」は、従前の研究が終戦に伴う外地から内地への人の移動に触れても、日本国内での人の移動への関心が希薄だったことを捉えたもので、宮崎市内にも奄美出身者の集住地域があることから受講者の関心を集め、活発な討議が行われました。 藤田氏のご報告「昭和戦前期の架空戦記と言論統制―『小説日米戦未来記をめぐって』」は、ある予備役の軍人の文筆活動が商品価値に溢れていたがゆえに外交問題に発展し、かつ言論統制の必要性が民間や議員から軍部に対して訴えられたという内容でした。これは、言論が軍部により一方的に弾圧されていたという従来の戦前期のイメージを刷新するもので、図像史料をも多様した報告内容に会場内の受講者は息をのみつつ聞き入っていました。			

宮崎公立大学自主講座

九州から発信する！

メディア史研究の最前線

近年、九州に着任した若手メディア史研究者を招き、最新の研究成果をお話いただきます。

- 講師** 中嶋 晋平（鹿児島大学法文学部）
「同郷者メディア『奄美』にみる終戦直後の鹿児島と奄美出身者」
藤田 俊（北九州市立大学基盤教育センター）
「昭和戦前期の架空戦記と言論統制—『小説日米戦未来記』をめぐって」
- 司会** 金子 龍司（宮崎公立大学）
- 日時** 3月20日（木・祝） 13:00～16:00
- 会場** 宮崎公立大学 研究講義棟 103大講義室
又は、オンライン受講（講座前にメールでパスワードを送ります）
- 対象者** どなたでも（高校生以上）
- 定員** 50名程度（オンライン受講は、定員は設けません）
※当日参加も可ですが、事前申し込みをお願いいたします
※オンライン受講希望の方は3月16日（日）までに申し込んでください
- 受講料** 無料

申込方法

申込QRコードよりお申込みください。
URL : <https://forms.gle/JK4jTByBL8TBJKYA9>

※ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。
※迷惑メール防止設定をされている方は、必ず「@miyazaki-mu.ac.jp」からのメールを受信できるように設定をお願いします。



申込QRコード



お問合せ先 宮崎公立大学 地域研究センター（凌雲会館2階） TEL : 0985-20-4772（土・日、祝日を除く9:00～17:00）
E-mail muurrc@miyazaki-mu.ac.jp

3. 令和6(2024)年度 語学講座

No.	講座名	講師	講座内容	日程
1	英語中級	宮崎公立大学 教授 Scott Bingham	・前期・後期 各10回 2回開講 ・英語の基礎、簡単な会話ができる人を対象に受講者を募集 ・募集定員 各40名 ・その時々話題を講師が提供し、受講生は、その話題についてグループに分かれて英語でディスカッションします	前期 5月15日～ 7月24日 後期 10月9日～ 12月11日 毎週水曜日 18時00分～ 19時30分
2	中国語初級	宮崎公立大学 日中文化交流促進部(学内課外活動団体)の学生	・前期・後期 各10回 2回開講 ・中国語を初めて学ぶ人を対象に受講者を募集 ・募集定員 各30名 ・留学経験のある学生や中国からの留学生、中国語を学ぶ学生たちが講師役となり、発音の基礎から簡単な会話ができるまで段階的に学びます	前期 5月16日～ 7月18日 後期 10月10日～ 12月12日 毎週木曜日 18時00分～ 19時30分
3	韓国語初級	宮崎公立大学 韓国文化研究部(学内課外活動団体)の学生	・前期・後期 各10回 2回開講 ・韓国語を初めて学ぶ人を対象に受講者を募集 ・募集定員 各15名 ・韓国語を学ぶ学生たちが講師役となり、発音の基礎から簡単な会話ができるまで段階的に学びます	前期 5月14日～ 7月16日 後期 10月8日～ 12月10日 毎週火曜日 18時00分～ 19時30分
4	小学生 英語教室	宮崎公立大学 グローバル人材養成プログラム講師 中村 勝志	・全4回 ・全4回を受講できる英語初心者の小学3・4年生募集 ・定員20名 ・初歩的内容で、ゲーム等を通じて英語になれてもらう	令和7年3月 8日(土) 9日(日) 15日(土) 16日(日) 10時00分～ 11時30分

講座名		語学講座 英語中級	
実施期間等	前期 令和6年5月15日～7月24日（全10回） 後期 令和6年10月9日～12月11日（全10回） ＊ 毎週水曜日 18時00分～19時30分	2 回	
会場	宮崎公立大学 交流センター 多目的ホール		
講師	宮崎公立大学 教授 Scott Bingham		
受講料	無料		
募集定員	各40名 (高校生以上、英語の基礎、簡単な会話ができる人を対象に受講者を募集)		
受講者数	前期44名 ＊応募者全員受講 受講者延べ数：285名 後期45名 ＊応募者全員受講 受講者延べ数：282名		
【講座の内容】 その時々話題を講師が提供し、受講生がグループに分かれてその話題について英語でディスカッションを行った。			
【受講者感想 ※アンケートから抜粋】 ・毎回いろいろな方とディスカッション出来てとても刺激を受けました。とても楽しかったです。 ・合計10回の講座でしたが毎回異なったしかも興味を引くような Topic を取り扱って議論することができました。 ・スコット・ビンガム先生は人間的にもバランスがとれて、お話がおもしろくとても良い人柄で毎回楽しく参加できました。			

講座名		語学講座 中国語初級	
実施期間等	前期 令和6年5月16日～7月18日（全10回） 後期 令和6年10月10日～12月12日（全10回） ＊ 毎週木曜日 18時00分～19時30分	2 回	
会場	宮崎公立大学 交流センター 多目的ホール		
講師	宮崎公立大学 日中文化交流促進部（学内課外活動団体）		
受講料	無料		
募集定員	30 名 （高校生以上、中国語を初めて学ぶ人を対象に受講者を募集）		
受講者数	前期 22 名 受講者延べ数：141 名 後期 17 名 受講者延べ数：115 名		
【講座の内容】 留学経験のある学生や中国からの留学生、中国語を学ぶ学生たちが講師役となり、発音の基礎から簡単な会話が理解できるまでを学んだ。			
【受講者感想 ※アンケートから抜粋】 ・初めは塾のようなきちっとした感じの講座かなと思っていたのでドキドキでしたが、とても親しみやすく楽しかったです。学生さん方の語学力とコミュ力の高さに驚きました ・中国の学生に、特に感謝をのべたいです。マスコミのえいきょうで、あまりイメージ良くなかったけど、それは一部にしかすぎない。もっと理解して、お互いの国と交流があるといいな。			

講座名		語学講座 韓国語初級	
実施期間等	前期 令和6年5月14日～7月16日（全10回） 後期 令和6年10月8日～12月10日（全10回） ＊ 毎週火曜日 18時00分～19時30分	2 回	
会場	宮崎公立大学 交流センター 多目的ホール		
講師	宮崎公立大学 韓国文化研究部（学内課外活動団体）		
受講料	無料		
募集定員	15 名 （高校生以上、韓国語で簡単な読み書きができる方を対象に受講者を募集）		
受講者数	前期 15 名 受講者延べ数：113 名 後期 15 名 受講者延べ数：107 名		
【講座の内容】 韓国語を学ぶ学生たちが講師役となり、発音の基礎から簡単な会話が理解できるまでを学んだ。			
【受講者感想 ※アンケートから抜粋】 ・ 学生さんたちの一生懸命さがとてもよかった。10 回全部参加できた理由の一つです。こちらわからないなりに頑張ろうと思えました。留学生の方のネイティブが聞けるのもよかった ・ 学生の皆さん、毎回準備等大変だったと思います。質問に丁寧にこたえていただきありがとうございました。 ・ 教え方が優しくて、分かりやすかったです。毎週火曜日を楽しみにしていたので、もう終わっちゃうのがすごくさみしいです			

令和6年度 宮崎公立大学 前期語学講座

受講者募集

韓国語初級：火曜日 定員15名 講師：韓国文化研究部（本学学生）
・韓国語の発音基礎から始めて、簡単な日常会話までを学びます。
（初心者に限る）

英語中級：水曜日 定員40名 講師：スコットビンガム准教授
・講師から出された課題を英語でディスカッションします。
（基本的な英会話や読み方のできる方）

中国語初級：木曜日 定員30名 講師：日中文化交流促進部（本学学生）
・中国語の発音基礎から始めて、簡単な日常会話までを学びます。
（初心者に限る）

※中国語初級の受講にはテキスト(発音CD付)の購入(2,420円 税込み)が必要です。
テキストの購入につきましては、講座の受講決定メールにて案内いたします。

講座日程等：令和6年5月14日（火）～ 7月18日（木）
18時00分～19時30分 全10回

対 象：高校生以上（全10回をおおむね受講できる方）
※各講座とも定員をオーバーした場合抽選となります。

会 場：宮崎公立大学 交流センター 多目的ホール

受 講 料：無料（中国語初級のみテキスト代が必要）

申込方法

右の申込QRコードまたは、下記のURLより
お申込みください。

URL：https://forms.gle/MoLTWWMGnvvZmnxSf8

申込締切 4月23日（火）

受講の決定はメールにてお知らせしますので、

@miyazaki-mu.ac.jp の受信許可設定をお願いします。

※ご提供いただいた個人情報につきましては、本学が実施している各種講座の運営
及び統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。



お問合せ・申込先

宮崎公立大学 地域研究センター（凌霄会館2階） TEL：0985-20-4772（土・日、祝日を除く9:00～17:00）
E-mail mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

令和6年度 宮崎公立大学 後期語学講座

受講者募集

韓国語初級：火曜日 定員15名 講師：韓国文化研究部（本学学生）
・韓国語の発音基礎から始めて、簡単な日常会話までを学びます。
（初心者に限る）

英語中級：水曜日 定員40名 講師：スコットビンガム教授
・講師から出された課題を英語でディスカッションします。
（基本的な英会話や読み方のできる方）

中国語初級：木曜日 定員30名 講師：日中文化交流促進部（本学学生）
・中国語の発音基礎から始めて、簡単な日常会話までを学びます。
（初心者に限る）

※中国語初級の受講にはテキスト(発音CD付)の購入(2,420円 税込み)が必要です。
テキストの購入につきましては、講座の受講決定メールにて案内いたします。

講座日程等：令和6年10月8日（火）～ 12月12日（木）
18時00分～19時30分 全10回

対 象：高校生以上（全10回をおおむね受講できる方）
※各講座とも定員をオーバーした場合抽選となります。

会 場：宮崎公立大学 交流センター 多目的ホール

受 講 料：無料（中国語初級のみテキスト代が必要）

申込方法

右の申込QRコードまたは、下記のURLより
お申込みください。

URL：https://forms.gle/8uSkw4hDL9XBTW9v6

申込締切 9月23日（月）

受講の決定はメールにてお知らせしますので、

@miyazaki-mu.ac.jp の受信許可設定をお願いします。

※ご提供いただいた個人情報につきましては、本学が実施している各種講座の運営
及び統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。



お問合せ・申込先

宮崎公立大学 地域研究センター（凌霄会館2階） TEL：0985-20-4772（土・日、祝日を除く9:00～17:00）
E-mail mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

講 座 名		楽しく学べる小学3・4年生初級英語教室	
実施期間 回数	令和7年3月8日(土)、9日(日)、15日(土)、16日(日) 10時00分～11時30分	全 4 回	
会 場	宮崎公立大学 凌雲会館 共同研究室2		
講 師	宮崎公立大学 グローバル人材養成プログラム講師 中村 勝志		
共 催 者	なし		
後 援	なし		
その他スタッフ	本学学生6名		
受 講 料	無料		
配付資料等	あり		
募集定員	なし		
対 象	小学3・4年生		
受講者数	20名		
【講座の内容】 ・アルファベットの大文字と小文字の違い、名前のローマ字表記、日常生活で使う単語やフレーズの書き方・発音方法を学習した。 ・4～5人のグループで、ランプやフラッシュカードを使った競争型のゲームなど、グループ内で楽しみながら学べる活動を多く行った。		【講座風景写真】  	
【講師コメント】 小学5年生から英語が教科として始まることをふまえ、小学4年生中心の参加者が少しでも前向きに学べるよう、教材研究を行い、英語教室を実施した。グループ内では英語の習熟度に差があり、進め方に苦労する場面もあったが、子どもたち同士で教え合ったり、アシスタントが積極的に関わってくれたことで、より良い学習の場となった。			

宮崎公立大学主催 — 小学3・4年生英語初心者対象 —
「楽しく学べる小学3・4年生初級英語教室」

**初歩的な内容です。宮崎公立大学の先生と一緒に、
楽しく勉強しましょう！！ 受講料は無料ですので、
どしどしご応募ください。**

★日 時 2025年3月8日(土)、3月9日(日)、3月15日(土)、3月16日(日)
全4回・全日程：10:00～11:30

★場 所 宮崎公立大学 凌雲会館2階 共同研究室（宮崎市船塚1丁目58）

★対象・定員 小学3・4年生・全4回受講できる英語初心者の方
10人程度（多い場合は抽選）

★受講料 無 料

★申込方法 下のQRコードより必要事項をご入力ください。
※結果は、メールにて連絡しますので、迷惑メール防止設定を
されている方は、必ず「@miyazaki-mu.ac.jp」からのメールを
受信できるように設定の変更をお願いします。



★締め切り 2025年2月23日（日）

★講 師 中村 勝志先生
（宮崎公立大学・グローバル人材養成プログラム講師）



QRコード

※ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種
講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外
に使用することはありません。



★問い合わせ先
宮崎公立大学 地域研究センター（凌雲会館2階）
（土・日、祝日を除く9:00～17:00）
TEL：0985-20-4772
E-mail mmurro@miyazaki-mu.ac.jp



4. 令和 6(2024)年度 リカレント教育プログラム

NO.	プログラム名	担当講師	日程・講座会場
1	サービス業従事者のための接客 韓国語講座	宮崎公立大学 非常勤講師 (韓国語) 申 允珠	令和 6 年 5 月 15 日～7 月 24 日 毎週水曜日 10 時 00 分～11 時 30 分 宮崎公立大学 凌雲会館 共同研究室
2	サービス業従事者のための接客 英語講座	宮崎公立大学 非常勤講師 (英語) ヒュー・ニコル	令和 6 年 9 月 25 日～12 月 11 日 毎週水曜日 13 時 30 分～15 時 00 分 宮崎公立大学 凌雲会館 共同研究室

講座名	リカレント教育プログラム 「サービス業従事者のための接客韓国語講座」	
実施期間等	令和6年5月15日～7月24日 ＊ 毎週水曜日 10時00分～11時30分	全10回 ＋ 修了認定試験
会場	宮崎公立大学 凌雲会館 共同研究室	
講師	宮崎公立大学 非常勤講師(韓国語) 申 允珠	
受講料	30,000 円 (教材費等含む)	
対象	主に宮崎市内のサービス業従事者等	
募集定員	10 名	
受講者数	8 名	
【講座の目的】 広く地域に開かれた大学として、地域における課題の解決や人材の育成に寄与するため、多様な学習ニーズに対応した多様な形態の学生（受講生）の受入を行い、生涯にわたる学び直しの場として、学習の機会を積極的に提供するため、本講座を開講する。		
【受講者からの感想】 ・実際に使用するシチュエーションにあった会話を教えていただいたので、実務に即活かせると思う。講座内容以外の会話が合った場合、返答するのは難しいかと思う。ハングルが読めるようになったことはとても良かった。 ・申先生の授業は楽しく大変分かり易かったです。ただ、回数は足りなかったです。これからも韓国語を続けて学んでいき、現場で使っていきます。 ・良い機会を頂けてとても良かったです。		
		

講座スケジュール

回	日 時	内 容
1	5 月 15 日 (水) 10:00～11:30	オリエンテーション、ハングルについて 基本母音
2	5 月 22 日 (水) 10:00～11:30	基本子音
3	5 月 29 日 (水) 10:00～11:30	濃 音 合成母音
4	6 月 5 日 (水) 10:00～11:30	パッチム ハングルで書いてみよう！
5	6 月 12 日 (水) 10:00～11:30	韓国語の簡単な挨拶 自己紹介をしてみよう (名前、居住場所、趣味、特技等)
6	6 月 19 日 (水) 10:00～11:30	フロントでの会話 韓国カルチャー (日韓の違い：生活様式について)
7	6 月 26 日 (水) 10:00～11:30	買い物・ショッピング時の会話 韓国カルチャー (日韓の違い：支払いについて)
8	7 月 3 日 (水) 10:00～11:30	レストランでの会話 韓国カルチャー (日韓の違い：食事について)
9	7 月 10 日 (水) 10:00～11:30	電話対応 韓国カルチャー (日韓の違い：敬語について)
10	7 月 17 日 (水) 10:00～11:30	トラブル・クレーム対応 韓国カルチャー (日韓の違い：ジェスチャーについて)
—	7 月 24 日 (水) 10:00～11:30	修了認定試験 ※合格者に修了認定証を発行

講座名	リカレント教育プログラム 「サービス業従事者のための接客英語講座」	
実施期間等	令和6年9月25日～12月11日 ＊ 毎週水曜日 13時30分～15時00分	全10回 ＋ 修了認定試験
会場	宮崎公立大学 凌雲会館 共同研究室	
講師	宮崎公立大学 非常勤講師(英語) ヒュー・ニコル	
受講料	30,000 円（教材費等含む）	
対象	サービス業従事者等	
募集定員	10 名	
受講者数	7 名	

【講座の目的】

広く地域に開かれた大学として、地域における課題の解決や人材の育成に寄与するため、多様な学習ニーズに対応した多様な形態の学生（受講生）の受入を行い、生涯にわたる学び直しの場として、学習の機会を積極的に提供するため、本講座を開講する。

【受講者からの感想】

・またこのような機会があれば是非参加したいです。色々な学びに繋がったので良かった。

・最初は少し難しいと感じましたが、英語での接客に対する向き合い方が変わり、向上して行こうという気持ちを持つことができました。今回学んだことは日常業務（チェックインなど）に役立てることができました。また、他の会社の方とコミュニティを広げることができて嬉しかったです。

・毎回の受講日を楽しみにしていました。先生や他の受講者のみんなと会える日を心待ちにするようになっていました。「英語」を学ぶ「きっかけ」を得ることができました。





講座スケジュール

回	日 時	内 容
1	9 月 25 日 (水) 13:30～15:00	オリエンテーション ～ 観光ビジネスのための英語： アクティブ・ラーニングの戦略
2	10 月 2 日 (水) 13:30～15:00	リズム、アクセント、発音学習： 職業上の挨拶と自己紹介
3	10 月 9 日 (水) 13:30～15:00	場所と時間の前置詞 指示を与える
4	10 月 16 日 (水) 13:30～15:00	数詞と非数詞
5	10 月 23 日 (水) 13:30～15:00	数字：日付、お金
6	11 月 6 日 (水) 13:30～15:00	商品やサービスの説明：メニュー、注文、販売会話
7	11 月 13 日 (水) 13:30～15:00	電話英語
8	11 月 20 日 (水) 13:30～15:00	予約を取る、旅行
9	11 月 27 日 (水) 13:30～15:00	注文、確認、配送先住所
10	12 月 4 日 (水) 13:30～15:00	トラブルシューティング：クレームと苦情
—	12 月 11 日 (水) 13:30～15:00	修了認定試験 ※合格者に後日修了認定証を発行

5. 令和 6(2024)年度 開放授業

名 称	担 当 講 師	概 要	期 間
前 期 開放授業		中止	
後 期 開放授業	科目コーディネート 担当 特任准教授 新村 拓也	宮崎公立大学の講義の一部 を地域住民の皆さまに公開 し、学生と一緒に授業を受け ることができる取り組み。	令和 6 年 9 月～ 令和 7 年 1 月

開放授業 ＜ 令和 6 (2024) 年度 後期 ＞			
申込期間	令和 6 年 8 月 1 日（木）～令和 6 年 8 月 30 日（金）		
授業期間	令和 6 年 9 月～令和 7 年 1 月		
応募状況	【申 込 件 数】 13 件		
	【申込者合計】 13 名		
受講状況	【受 講 者 数】 9 名		
	【受 講 件 数】 9 件		
	【修了証授与者】 9 名		
防災士資格 受験状況	【防災士試験受験者】 8 名		
	【防災士試験合格者】 8 名		
受 講 料	1 科目 5,000 円（15 回の講義）		
オリエンテーション	令和 6 年 9 月 26 日（木） 10：00 ～ 12：00		
開 講 科 目 一 覧			
科 目 名	担当教員	定 員	受講者数
1 自然災害と防災・減災	特任准教授 新村 拓也	5	9

※自然災害と防災・減災の講義を受けることにより、「防災士」の資格取得のための試験の受験資格を取得できます

宮崎公立大学 令和6年度後期開放授業

防災士養成講座 受講者募集

「自然災害と防災・減災」

本学の学生と
一緒に防災士
を目指しませんか。

学生と一緒に本学の授業を受講する「開放授業」として実施します。

本講義を受講し、一定基準をクリアすれば、防災士試験の受験資格を得ることができます。

自然災害はいつ起こるかわかりません。災害発生の仕組みや、いざというときの心構えを学ぶことで、防災・減災について考えてみませんか。



■実施概要

授業期間：令和6年9月末～令和7年1月
(毎週月曜日 16:20～17:50)
(この期間に90分×15回の講義を実施します)
(防災士資格取得試験は令和7年1月に実施予定)
募集期間：令和6年8月1日(木)～8月30日(金)必着
場 所：宮崎公立大学(宮崎市船塚1丁目1番地2)
受講資格：18歳以上の方
定 員：5名程度(応募多数の場合は抽選)
受 講 料：5,000円
(別途、テキスト代4,000円等の費用負担が生じます)

■募集要項について

募集要項は下記のいずれかの方法で入手してください。

- ☐ 来学での請求 ※右下の地図を参照ください。
宮崎公立大学 地域研究センター(凌雲会館2階)で配布しています。
- ☐ ウェブサイトからダウンロード
宮崎公立大学ウェブサイトからダウンロードしてください。

※ご提供いただいた個人情報につきましては、本学が実施している各種講座の運営及び統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。

■問合せ・申込先

宮崎公立大学 地域研究センター
〒880-8520 宮崎市船塚1丁目58番地 凌雲会館2階
TEL：0985-20-4772
FAX：0985-20-4773
E-mail: mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp
受付時間：平日9時～17時(土・日・祝日を除く)

■申込方法について

お申込みは、下記申込フォーム(QRコード)または、氏名(ふりがな)、年齢、住所、連絡が取れる電話番号、メールアドレスをご記入し、メール、郵便、FAXにてチラシ内の申込先まで申してください。



↑ 申込フォーム



詳細はウェブサイトをチェック
<https://www.miyazaki-mu.ac.jp/>

宮崎公立大学 検索

6. 令和 6(2024)年度 公民館講座

NO.	講 座 名	担当講師	日程・講座会場
1	よみがえる江戸時代の宮崎	教授 大賀 郁夫	生目地区交流センター 令和 6 年 10 月 10 日 (木)
2	よみがえる江戸時代の宮崎	教授 大賀 郁夫	清武地区交流センター 令和 6 年 10 月 25 日 (金)

7. 令和6(2024)年度 その他講座・講演・講義

講演名	担当	開催趣旨	日程
宮崎公立大学 教育 フォーラム 2024 今なぜ語彙・文法 指導なのか？ ーコミュニケーション活動の視点か らー	宮崎公立大学 教職課程部会	今回で7回目の開催となる宮崎公立大学教育フォーラムでは、「今なぜ語彙・文法指導なのか？ーコミュニケーション活動の視点からー」をテーマに、研究者や県内外で活躍している本学卒業生を含む英語教育の実践者をお招きし、基調講演や授業実践報告を通して、これからの英語教育のあり方を考えていきたいと思います。日頃から学校現場で英語教育を実践されている方々、教育行政に携わる方々、英語教育に関わる研究を進めておられる方々と、語彙・文法指導について一緒に考える機会になれば幸いです。皆様方のご参加を心よりお待ちしております。	令和6年 8月5日(月) 13:00～16:30

宮崎公立大学教育フォーラム 2024				
講 演 名		今なぜ語彙・文法指導なのか？ ーコミュニケーション活動の視点からー		
実施日時等		令和6年8月5日（月）13時00分～16時30分		全 1 回
会 場		宮崎公立大学 103 大講義室		
	時 間	内 容		
1	13時00分 ～13時05分	開会行事		
2	13時05分 ～14時05分	基調講演	テーマ：自律的学習を導く語彙・文法指導の原点 講 師：登田 龍彦（熊本大学 名誉教授）	
3	14時05分 ～14時20分	質疑応答		
4	14時30分 ～15時30分	授業実践報告		
5	15時40分 ～16時20分	情報交換・ グループ討議	情報交換 グループに分かれての討議	
6	16時20分 ～16時30分	閉会行事		
受 講 料		無料		
対 象		宮崎県内外の教育関係者		
受 講 者 数		38 名		

宮崎公立大学 教育フォーラム 2024

今なぜ語彙・文法指導なのか？

ーコミュニケーション活動の視点からー

【開催趣旨】

今回で7回目の開催となる宮崎公立大学教育フォーラムでは、「今なぜ語彙・文法指導なのか？ーコミュニケーション活動の視点からー」をテーマに、研究者や県内外で活躍している本学卒業生を含む英語教育の実践者をお招きし、基調講演や授業実践報告を通して、これからの英語教育のあり方を考えていきたいと思います。日頃から学校現場で英語教育を実践されている方々、教育行政に携わる方々、英語教育に関わる研究を進めておられる方々と、語彙・文法指導について一緒に考える機会になれば幸いです。皆様方のご参加を心よりお待ちしております。

日時

2024年8月5日(月)13:00～16:30

場所

宮崎公立大学 103講義室

参加費

無料（定員なし）

基調

テーマ： 自律的学習を導く語彙・文法指導の原点

講演

講師： 登田 龍彦(熊本大学 名誉教授)

授業実践報告

プレゼンター	坂元 賀子	(佐土原小学校 教諭)
プレゼンター	熊元 玲央	(高鍋西中学校 教諭)
プレゼンター	畠中 康希	(宮崎商業高等学校 教諭)
コメンテーター	登田 龍彦	(熊本大学 名誉教授)
司会	松本 祐子	(宮崎公立大学 教授)

※ 当日のプログラム、参加申込の方法につきましては裏面をご覧ください。

後援：宮崎県教育委員会・宮崎市教育委員会

英語教育フォーラム 2024 フライヤー

プログラム

1	開会行事	13:00～13:05
2	基調講演	13:05～14:05
3	質疑応答	14:05～14:20
休憩		14:20～14:30
4	授業実践報告	14:30～15:30
休憩・会場設営		15:30～15:40
5	情報交換・グループ討議	15:40～16:20
6	閉会行事	16:20～16:30

※ フォーラム終了後、本フォーラムの内容に関する簡単なアンケートにご協力下さい。

参加申込方法

右のQRコードから参加予約フォームにアクセスし、
氏名・所属・連絡先(メールアドレス)等必要事項を入力の上、**7月26日(金)までに**送信してください。



お問い合わせ

〒880-8520 宮崎市船塚1丁目1-2 宮崎公立大学「教育フォーラム開催事務局」
TEL: 0985-20-2213 FAX: 0985-20-4820 E-mail: kyoumu@miyazaki-mu.ac.jp

アクセス

〒880-08520 宮崎市船塚1丁目1-2
宮崎公立大学



Ⅱ 研 究 事 業

1. 宮崎公立大学学術研究推進助成事業

1. 令和 6 (2024) 年度 宮崎公立大学学術研究推進助成事業

No.	職 氏 名	研 究 課 題
1	教授 森部 陽一郎	非言語情報伝達手段による外国人労働者への支援
2	准教授 田村 恵理子	自律型兵器システム(AWS)と国際法上の課題
3	講師 金子 龍司	太平洋戦争末期における宮崎県への少女歌劇団の来訪 ―宝塚歌劇移動隊を中心に―
4	特任教授 西村 勇	交換留学生と宮崎公立大の学生による新たな青島観光資源の発見
5	特任准教授 原田 真理	多言語教育の未来を探る：産官学連携の視点から ―母国語と日本語力を融合させた教育サポートの構築を目指して―
6	教授 田宮 昌子	図書出版 『現代日本人のための中国文化論 ―現代中国現象の歴史的文化的淵源』

非言語情報伝達手段による外国人労働者への支援

[研究代表者]

森部 陽一郎（宮崎公立大学 教授）

I 実施概要

本事業の 1 年目では、レンガ製造企業において、さまざまな作業における「わかりやすい」作業指示のための視覚情報提供を行った。

具体的には、多様な労働者（外国人労働者を中心に）が従事する白地工程での作業指示を対象として、同工程での抜き取り検査での良品・不良品の判断を非言語で情報伝達できるような作業指示板を作成した。

II 本事業実施により得た成果・効果等

- ・ 外国人労働者の特性の理解
- ・ 多様な労働者（外国人労働者を含む）への情報提供の重要性
- ・ 白地工程の品質管理のために、どのような情報を伝えるべきかを精査
- ・ 多様な労働者への対応のため、カラーユニバーサルデザインの適用
- ・ 作業環境の効率化

III 問題点および今後の課題等

今後は、作成した作業指示板を用いて、どのくらい良品・不良品の判別に効果があるのかを調べる必要がある。また、その成果について公表を行う。

自律型兵器システム(AWS)と国際法上の課題

[研究代表者]

田村 恵理子（宮崎公立大学 准教授）

I 実施概要

本研究の目的は、AWS の開発・生産・移譲・使用等がどのような国際法のルールに関連し、具体的にそれらを遵守する上でいかなる課題や挑戦を惹起しうるかを総合的に検討し、とりわけ、既存の国際法では対応できない事態が生じ得るのかを見極めることであった。

第一に、国際人道法に AWS を適用する上での問題点を包括的に検討した。その成果が下記の学会報告と 2 つの論文である。その結果、AWS が国際人道法上「全面使用禁止」される可能性は低く「使用制限」に留まるが、AWS に内在する予測不可能性と説明不可能性に鑑み、AWS に対する「有意味な人的制御」の具体化が重要であること、そして、「文民の存在が予想される環境では AWS を使用すべきでない」というような既存の国際人道法を超える追加的な制限を課すか否かが議論の焦点となること、が明らかとなった。

第二に、国際人権法に AWS を適用する上での問題点を検討した。その成果が下記の公立大自主講座である。その結果、AWS が国際人道法を遵守できる性能をもつのかという「遵守能力問題」と、完全に有能な AWS であっても機械に人の殺傷を委ねてよいかという「規範的問題」とが区別され、後者こそが国際人権法の取り組む課題であること、そしてそれは功利主義と義務論の対立という古典的な規範倫理学上の論争と軌を一にすると、諸国の間で合意が得られていない難問であること、が明らかとなった。

II 本事業実施により得た成果・効果等

- ・田村 恵理子「AI 兵器は戦争をより人道化するか？」宮崎公立大学自主講座（2024 年 6 月 21 日）
- ・田村 恵理子「AI と国際人道法—自律性兵器システムを中心に—」九州法学会第 129 回学術大会・研究報告（2024 年 6 月 30 日）
- ・【論文】田村 恵理子「自律性兵器システムの定義問題と国際人道法の法的性質」『人道研究ジャーナル』Vol.14（2025 年）32-41 頁
- ・【論文】田村 恵理子「自律性兵器システムと国際人道法—その適用をめぐる諸問題の検討—」『宮崎公立大学紀要』第 32 巻 1 号（2024 年）33-52 頁

III 問題点および今後の課題等

本研究がやり残したのは、次の 2 点である。第一に、国家責任及び個人刑事責任の国際法を AWS に当てはめる検討が道半ばとなった。その大きな理由は、先行研究が未だ少なく、国家実行が限定的であることが明らかとなったからだ。また、AWS の定義にさえ合意がなく一次規則レベルでの条約化が進展しない中で、二次規則の議論をするのは困難であることも判明した。よって、

今後は、AWS 開発国の米、中、ロシア等の国内法レベルの検討に取り組み、それが将来的に国際法の形成に与える影響を見極める必要がある。

第二に、武力行使それ自体を規律する国際法（jus ad bellum）へのAWSの適用が、十分に検討できなかった。その理由も先行研究と国家実行の少なさにあるが、加えて、AWSが特段 jus ad bellum 上の争点を提起しない点にもあるのではないかと推測する。自国兵士の代わりにAWSが戦えるということが、国家の武力行使への敷居を下げるかどうかは事実レベルの問題で、実証されていないばかりか、そうだととしても直接には jus ad bellum と関係しない。そもそも jus ad bellum は兵器の種類にかかわらず武力行使という国家の意思と行為を対象とするからだ。もっとも、現在ウクライナがAWSに近い無人兵器を戦場で多用しているように、自衛のための武力行使は生身の人間（兵士）でなくAWSが実行するのが規範的に妥当だと言える余地はある。この点の検討は今後の課題としたい。

太平洋戦争末期における宮崎県への少女歌劇団の来訪

—宝塚歌劇移動隊を中心に—

[研究代表者]

金子 龍司（宮崎公立大学 講師）

I 実施概要

- ・本研究は、戦争末期の宝塚歌劇移動隊などの少女歌劇団の九州巡回について分析するものである。本年度は分析のための史料収集を主として行った。
- ・史料収集は国立国会図書館で実施し、1943 年以降 1945 年までの間の新聞各紙から宝塚歌劇移動隊の動向を記した記事を収集した。申請段階では調査対象を宮崎県および大分県の新聞に限定していたが、想定よりも進捗が早く、鹿児島、熊本、福岡、佐賀の県紙のほか、朝日、毎日両全国紙の地方面も閲覧した。また、移動演劇招聘の窓口となっていた産業報国会刊行の日本産業報国会新聞や、同時期の演劇雑誌、戦後の関係者の回想録なども収集した。

II 本事業実施により得た成果・効果等

- ・少女歌劇は米英的な若年女性の文化として東京・大阪では 1944 年の決戦非常措置を機に劇場閉鎖・興行停止などの措置が採られていた。しかし、本事業により、地方においてはむしろ少女歌劇が歓迎されていた旨を断片的に確認することができた。
- ・たとえば、1945 年の『日向日新聞』からは、宮崎県産業報国会の高千穂支部長の「肝入り」で少女歌劇を招聘して上演していたことが確認できた。この記述からは、おそらく中高年以上の男性役職者が労働者の慰安のために少女歌劇が適していると肯定的に評価していたことが明らかである。
- ・このことは、44 年 11 月の演劇雑誌『日本演劇』上で開催された座談会において、長野県への宝塚歌劇移動隊の巡回に同行した大政翼賛会宣伝部の高橋健二（独文学者）が地方における宝塚の歓迎ぶりを力説したことで符号する。
- ・注目すべきは、これに対して演劇評論家が、軍人の慰問で少女歌劇団員はアイシャドウを使って観客を喜ばしているが、これに好感が持てないとか、東京で否定されたはずの少女歌劇が地方で歓迎されるのは何故かとか、徹底して懐疑的な姿勢を示していたことである。
- ・ここからは、現場の慰安に役立てばよいという政府機関の立場と、戦時下の取締りを通じて演劇の「向上」を図りたい演劇評論家の立場が鮮明に対照されている。要は、少女歌劇の否定が実は政府関係機関ではなく評論家たちの意向に沿うものでしかなかったことが仄めかされているのである。
- ・これを広く戦時社会の動向と照合すれば、戦争末期の社会の下方平準化と重なりあう。すなわち、物資統制や空襲被害などにより上中流層が没落し、相対的に下層階層の発言力が増加しつつあるとき、その意向に沿う文化もまたインテリ層の意向に反して存在感を拡大していたことになる。
- ・なお、本事業で得た 成果の一部を『歴史評論』 2025 年 8 月号に発表予定であり、すでに送稿済。

III 問題点および今後の課題等

1 調査対象の拡大

以下 2 つの理由から、助成申請段階よりも調査対象とする新聞の範囲を拡大する必要が発生した。

①全国紙地方面の閲覧

申請段階では、史料調査対象として各県紙のみを挙げていたものの、全国紙の地方面にも関係記事が掲載されていたことから、調査対象を拡大する必要が発生した。なお、全国紙の地方面は地域ごとに複数発行されているものがあり（例：朝日新聞は福岡県だと北九州版や福岡市内版など 3 種類の地方面があった）、通覧のために相応の時間が必要となる。

②九州外の地方の新聞の閲覧

本年度は九州各県の新聞を収集したが、当時は用紙制限もあって各紙とも宝塚歌劇移動隊に関する記事は小さく、観客の動向はほぼ不明である。

しかし、少女歌劇は大正期以来女性観客の熱狂が社会的に問題視されており、戦争末期にどのような鑑賞態度が採られていたかは重要な論点になりうる。実際に、東京においては44年2月、少女歌劇興行が停止される直前まで、客席で絶叫する女性ファンや開演前に行列するファン、女優の出待ちをするファンが大問題になっていた。戦局が相当程度悪化しても熱狂的に推し活するファンがいたのである。この事象は地方への移動演劇でも見られたのだろうか。

よって申請段階では九州のみを調査することとしていたが、観客の動向を少しでも拾うべく、可能な限り全国の新聞を閲覧することとしたい。

2 成果公表方法の変更

申請時点では倉真一編『大学的宮崎ガイド』（昭和堂、2026年予定）において成果公表予定であったところ、上記1.により、史料調査に相当の時間が必要であり、かつ学術誌の査読に堪えうる内容となる可能性も捨てきれないことから、同書での成果公表は見送り、査読誌への掲載を目指すこととする。

交換留学生と宮崎公立大の学生による新たな青島観光資源の発見

[研究代表者]

西 村 勇（宮崎公立大学 特任教授）

[研究分担者]

辻 利 則（宮崎公立大学 学長）

原田 真理（宮崎公立大学 特任准教授）

I 実施概要

本事業は、本学の学生と交換留学生が協力して、新たな青島の魅力を発見する事業である。留学生来日前に本学学生による外国人用青島観光ガイドマップを英語で作成する（可能であれば韓国語、中国語も対応）。留学生が宿舎より公共交通機関を利用し、学生が作成した外国人用青島観光ガイドマップをもとに青島の気になる魅力的なスポットを訪問し、地域の人たちに取材を行い、写真とコメントを収集し 2 年間継続実施することで様々な観点からの観光情報がマッピングされていく。

今年度は本学学生による青島訪問調査を行いガイドマップを作成した。また、韓国・中国・米国の短期留学生へ参加投稿の呼びかけを複数回行い投稿データの収集を行なった。

II 本事業実施により得た成果・効果等

- ・観光写真や動画が投稿サイトは LINE アプリで作成したが、日本以外では LINE 利用がほとんどない為、ネット（URL）へ移管し投稿サイトが完成した。
- ・本学学生による青島訪問調査から地域理解が深まり、インターネット上での観光投稿サイトや青島地図の作成が完了した。
- ・本学学生が地域訪問調査における手順や対応について理解が深まった。
- ・ガイダンスや授業の時間を利用して留学生へのアナウンス活動を行った結果、留学生目線の宮崎観光の投稿が行えた。
- ・投稿写真などについて情報交換を本学学生と留学生の間で行うことにより多言語による情報交換が行えた。

III 問題点および今後の課題等

- ・到着直後のガイダンスや授業は、留学生への情報が多いため、投稿サイトについての認知が広まらない。（情報過多の問題）
- ・最初の韓国留学生は LINE 対応だったため投稿がなかった。中国留学生は動画などさまざまな投稿があった。米国留学生はガイダンス、授業、同校教員からも説明と協力を行ったが投稿数はゼロであった。留学生へのガイド認知と投稿についての説明や協力方法の検討が必要。
- ・学生課などとの学内への情報提供や協力依頼ができていなかった。
- ・投稿写真などを利用した学生間のコミュニケーションについての方法。
- ・投稿サイトの投稿・検索・利用方法や多言語化などの改善点は宮崎市観光部局などへの情報提供や利活用についても 2025 年度対応予定。

多言語教育の未来を探る：産官学連携の視点から
—母国語と日本語力を融合させた教育サポートの構築を目指して—

[研究代表者]

原田 真理 （宮崎公立大学 特任准教授）

I 実施概要

本研究では、宮崎市における外国人児童およびその家族帯同者の地域共生の課題に取り組むことを目的としている。宮崎市では、日本語支援の必要な児童生徒に対し日本語支援員の配置をしているが、児童数の増加に伴い支援員だけでは不十分な事例が顕在化している。また、家族帯同者は日本語運用力への不安から地域ネットワークの構築が困難な状況も見られ、多様な言語・文化に精通した人材が活躍できる場づくりが緊急課題となっている。そこで本研究では、①家族帯同者へのヒアリングとニーズ分析、②多言語リソースの発掘と教育研修プログラムの開発、③共同プロジェクトと交流プラットフォームの構築、という3つの実施方針のもと、包括的な教育支援体制の構築を目指す。

外国人家族帯同者への意識調査として、宮崎市国際交流協会が8月と12月に開催した「わくわく日本語教室親子交流会」参加者を対象に、ヒアリングを実施した。また、同月本学において外国につながる子ども向け宿題サポート教室を開催し、送迎にきた保護者への個別ヒアリングを実施した。また、夏季休暇期間中、外国につながる子どもたちへの宿題サポート教室を学内で学生とともに実施し、日本語支援の必要な児童の学習状況を把握した。

日本語指導者・サポーター向けに、本学において「宮崎子ども日本語教育研究会」が研修を複数回実施した。ここで、日本語初期指導に必要な教材を体系化したマニュアルガイドブックが完成した。それを踏まえ、家族帯同者が教育支援を実施できる機会の創出を含めた教育研修プログラム案の検討を行った。

II 本事業実施により得た成果・効果等

「わくわく日本語教室親子交流会」では、ネパールやインドネシア、中国など多様な出身国の保護者から、家庭で過ごす時間が多く孤立しやすい、学校文書への理解不足による忘れ物トラブルが多い、途中来日による授業理解の遅れなど、具体的な課題を把握できた。また、宿題サポート教室では、保護者からの「回数を増やしてほしい」という要望を受け、8月後半に2日間追加で開催した。特に日本語支援が必要なネパール人家庭では、保護者が自宅で宿題確認ができないため、大学でのサポートが有益であるという意見が出た。

さらに、ヒアリングを通じて、キーパーソンとなる保護者および多言語対応可能な人材の発掘に成功した。

III 問題点および今後の課題等

様々なイベントにおいて外国につながる保護者へのヒアリングやインタビューを複数回実施したものの、「直接的な支援」には未だ届いていない点が課題である。多様な意見を「見える化」するため、ワークショップ形式や体験会の併用による参加型調査手法を導入する予定である。

また、宿題サポート教室で、ネパール国籍の児童向けにネパール語 web 教材を使用したところ、母語での専門的な語彙の読み取りが困難なため、効果が得られなかった。専門語彙の理解を助けるため、図解や動画などの視覚支援教材の導入が必要である。

保護者を語学サポーターとして教材の説明役を担ってもらおうとしたが、今年度は実施できなかった。

次年度は、教材に関するワークショップや体験会を実施し、支援体制の具体化を推進していく。

図 書 出 版

『現代日本人のための中国文化論—現代中国現象の歴史的文化的淵源』

[著 者]

田宮 昌子 (宮崎公立大学 教授)

出版図書概要

出版物の名称：現代日本人のための中国文化論
—現代中国現象の歴史的文化的淵源—

著	者：田宮 昌子（宮崎公立大学 教授）
出 版	日：令和 7 年 1 月 17 日
判	型：四六版
ペ ー	ジ：155 ページ
I S B N	N：9784860619114
出 版	社：鉾脈社
定	価：1,760 円(税込み)



内容説明

“中国”は、世界の多様な文化の中でも、日本の伝統と現在、いずれについて考えるにしても無視できない大きな文化的存在です。日本の社会と文化は有史以来、ほとんど全面的と言ってよいほど多方面にその影響を受けてきました。その存在感と影響力にどう向き合うかは歴史上常に日本の課題でしたし、今日また新たに切実さを増してもいます。

本書は、(中国について専門ではない) 一般的な現代日本人を対象として、日本と日本人にとって、巨大で重要で、それゆえに厄介な、この“中国”という文化的存在について、まず大まかな概観を得ると同時に、いくつかの具体的な切り口から理解と考察を深めて頂けるものとなることを企図しています。

著者による著作紹介

中国の歴史や文化を扱う書籍の多くが巻頭に「中国とは何か」を論じる文章を載せます。本書でも様々な面を扱いながら、終始「中国とは何か」という問いを考え続けていきます。

本書は勤務校での「中国文化論」講義をもとにしたものです。長年にわたる講義では焦点は年ごとに異なりつつも、およそ本書に収めた事柄を扱ってきました。国際文化学科の一講義として、世界の多様な文化の中で、日本の伝統と現在、どちらについて考えるにしても重要な存在である“中国”という文化的存在について、まずざっくりと概観を得ると同時に、折々に挿入する具体的な切り口から理解を深めることを趣旨としています。

本書の構成としては、主題である「現代中国現象の歴史的文化的淵源」を考えていくために、まず序論で中国世界の構造を見た上で、第一章で百年を一目盛りとして現代に至る経緯をつかみ、その上で、第二章では今日我々が目の当たりにする現代中国の諸現象の背景にある伝統的基盤について、第三章では日本の社会と文化が中国のそれらとどのような関係を持ちながら今日に至るのかについて、最後に、第四章では日本であり知られていない近現代中国に日本が与えた巨大な影響について、駆け足ではありますが見ていきます。構成は以下の通りです。

序章 中国世界の構造

第一章 中国マクロヒストリー

一統一と分裂の反復、反復の中の変遷、変遷の中の継続性

第二章 漢文化—漢字を成立基盤とする文化世界

- 1、漢字に結ばれる集団とその集団の営みの総体としての文化
- 2、経書—宇宙から地上の森羅万象までを秩序づける縦糸
- 3、五経—その概容と文化的機能
- 4、悲憤慷慨の系譜—中国の文学・歴史・政治を貫くロマン主義
- 5、ユートピア思想—この世はどうあるべきか

第三章 中国が日本を作った？日本が中国と持って来た文化交渉史

- 1、「統治の圏外」「文化の圏内」—中国文化圏における日本の位置
- 2、中華世界の内部構造—中心から外縁へ
- 3、日本が中国と持って来た文化交渉・関係略史
- 4、漢文化の日本への伝来と受容のかたち—漢字・元号・朱子学を例に
- 5、近代における離脱・自立の試みと「伝統」としての再定義
- 6、「日本の伝統」としての再定義（具体例）—元号を事例として

第四章 日本が中国を作った？—日中関係史（近現代）

- 1、マクロヒストリーの視点から
- 2、日中における「近代」「現代」が意味するものの違い
- 3、近代の訪れに伴う世界秩序の再編
- 4、日中関係史（具体例）日中戦争—その背景・展開・顛末

本書で述べる個々の事柄については専門書や資料が豊富にあります。本書は中国研究の入門書ではなく、現代日本を生きる日本人が日本を考えようとする際の基礎知識の重要な一部としての中国文化論を提示したいと考えました。個別に関心を持って頂いた事柄については、巻末の参考文献リストもご参照頂き、より奥深い世界に歩み入って頂ければと思います。

Ⅲ 連 携 協 力 事 業

1. 宮崎市教育委員会等との連携協力
2. 宮崎銀行・宮崎太陽銀行・宮崎商工会議所との連携協力
3. 宮崎日日新聞社との連携協力

1. 宮崎市教育委員会等との連携協力

宮崎市教育委員会との令和6(2024)年度連携協力事業については、以下のとおりである。

1 宮崎東中学校における英語学習アシスタント活動（長期：半年間）

教員を目指している4年生が、卒業後、不安なく教壇に立てるよう、昨年に引き続き半年間、英語学習アシスタント活動を行う。

●参加者無し

2 宮崎東中学校における英語学習アシスタント活動（長期：1年間）

教員を目指している2年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成26(2014)年度から英語学習アシスタント活動を行う。

●2年生1名参加

3 大宮中学校における英語学習アシスタント活動（長期：半年間）

教員を目指している4年生が、卒業後、不安なく教壇に立てるよう平成27(2015)年度から英語学習アシスタント活動を行う。

●4年生4名参加

4 大宮中学校における英語学習アシスタント活動（長期：1年間）

教員を目指している3年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成29(2017)年度から英語学習アシスタント活動を行う。

●3年生9名参加

5 大宮中学校における不登校生徒への支援活動

教員を目指している学生が、不登校生徒への支援活動を行う。

●4年生4名参加

6 その他の活動

<宮崎西中学校における学校支援ボランティア>

① サマースクール支援（夏季休業中）

夏休み期間中のサマースクール（学習会）において、教職課程を履修している学生が中学生への学習支援を行う。

●参加者無し（学校からの依頼無し）

② 英語検定二次試験面接指導

英語検定を受験する生徒を対象にした二次試験（面接）の指導に、教職課程を履修している学生が面接官役になって指導を行う。

●参加者無し（学校からの依頼無し）

③ 英語学習アシスタント活動（長期：1年間）

教員を目指している2年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成30(2018)年度から英語学習アシスタント活動を行う。

●2年生1名参加

<宮崎県教育委員会主催事業>

スクールトライアル事業への参加（短期：3日間）

昨年度に引き続き、教員を目指す2、3年生に対して、教育実習とは別に、教員の業務に対する理解や子どもとのコミュニケーションを図る機会を提供する。

●2年生8名参加

<宮崎市教育委員会主催事業>

宮崎市特別支援教育学生ボランティア活動（1年）

教員を目指す学生に対して、特別支援教育の理解を図るための機会を提供する。

●2年生4名参加

2. 宮崎銀行・宮崎太陽銀行・宮崎商工会議所との連携協力

○宮崎銀行

- ・令和6(2024)年度は、なし

○宮崎太陽銀行

1 「キャリア設計Ⅱ」の講義での企業訪問受け入れ

本学の後期開講科目である「キャリア設計Ⅱ」で実施する学生の企業・自治体インタビューの受入を行っていただいた。

- ・実 施 日：令和6年12月3日（火）
- ・参加学生数：10名

○宮崎商工会議所

1 日商簿記検定

日商簿記検定の試験会場として、学内施設の貸出を行った。

- ・実 施 日：令和6年6月9日（日）

2 みやざき観光・文化検定

みやざき観光・文化検定の試験会場として、学内施設の貸出を行った。

- ・実 施 日：令和6年12月15日（日）

3. 宮崎日日新聞社との連携協力

本学では、学生が時事問題や地域の課題について関心を高めるため、新聞を活用した講義（※）を設け、宮崎日日新聞社から、その講義に、記者などを講師として派遣していただいている。

※令和 6（2024）年度後期「時事問題ガイド」（主に 1 年生対象科目）

	日 時	講義題名	講師名
1	10 月 04 日（金）	地元紙のトリセツ 新聞を教官の土台に	宮下 拓 ニュースセンター参事
2	10 月 11 日（金）	災害報道 自分を守る力備えて	中川 美香 報道部長
3	10 月 18 日（金）	新聞における写真の役割と力 記事の信頼性高める	中島 雅隆 写真映像部長
4	10 月 24 日（水）	伝える文書 “言葉の大海”旅にして	久保田 順司 論説委員会委員
5	11 月 01 日（金）	中村地平 再評価 「地方創生」全力注ぐ	杉田 亨一 報道部編集委員
6	11 月 08 日（金）	宮崎国スポ 「大会後」の視点重要	落合 敬史郎 運動部長
7	11 月 15 日（金）	NIE とは何か 「自ら学ぶ力」を養う	福重 政則 読者局読者室読者企画委員
8	11 月 22 日（金）	食糧危機はそこに 自給の道切り開こう	永峰 寛子 生活文化部編集委員
9	11 月 29 日（金）	事業承継と 100 年企業 変革恐れない実行力	諫山 尚人 経済部編集委員
10	12 月 06 日（金）	歴史紡ぐ新聞 歴史残し道しるべに	大山 俊郎 編集局次長
11	12 月 13 日（金）	「戦後 80 年へ」報道 記録と証言 次世代に	徳留 亜弥 報道部次長
12	12 月 20 日（金）	地方と政治 若い人の声こそ届く	海老原 斉 報道部次長
13	12 月 27 日（金）	交通事故ゼロへ 安全意識を常に高く	上原 幹夫 報道部編集委員
14	1 月 10 日（金）	新田原 F35B 配備 中国の軍拡大行動 背景	湯田 光 報道部編集委員
15	1 月 24 日（金）	デジタル時代の報道 情報の「信頼性」磨く	鬼束 功一 デジタル企画部長

地域連携・防災研究センター年報

令和6（2024）年度 第17号

発行日 : 令和7年10月

編集者 : 宮崎公立大学 地域連携・防災研究センター

住所 : 〒880-8520 宮崎市船塚1丁目58番地

電話 : 0985-20-4772

F A X : 0985-20-4773

U R L : <https://www.miyazaki-mu.ac.jp>

E-Mail : mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp
